

Title	西ドイツ刑法学の現状 (追録II) (1)
Sub Title	Der gegenwärtige Stand der deutschen Strafrechtswissenschaft (Zweite Ergänzung) (1)
Author	宮沢, 浩一 (Miyazawa, Kōichi)
Publisher	慶應義塾大学法学研究会
Publication year	1972
Jtitle	法學研究 : 法律・政治・社会 (Journal of law, politics, and sociology ). Vol.45, No.9 (1972. 9) ,p.87- 131
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	資料
Genre	Journal Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00224504-19720915-0087">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00224504-19720915-0087</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

## 西ドイツ刑法学の現状(追録Ⅱ)(1)

宮 沢 浩 一

## まえがき

一 西ドイツの刑法学界の状況について、すでに本誌上に二度(三八巻八号六四頁以下、四〇巻三号六八頁以下)、刑法雑誌上に二回にわたつて分載した(同誌一七巻一・二号、三・四号)。この種の資料は、速報性のあることと正確であることを必要とする。速報性に關しては、二、三年ごとに追録を公表しうる点で、本誌上を借りることが出来ることは、まことに幸であると言わなければならぬ。正確という点では、これまでに公刊した部分に散見しうる誤植や誤謬を出来るだけ訂正することに努めなければ、ビブリオグラフィとしての価値にかかわる。

この資料を出し始めてから、もう七年になるが、このような形で、組織的に文献を整理する仕事は、西ドイツにも例をみないから、私としては、今日でも、全くのところ手さぐりの状態である。目についた限りでの著書や論文をメモしたり、カードにとつたりす

るには、相当の根気がいるし、人間のなすことであるから、転記を忘れたり、雑誌の欠号をついそのままに見過すことも稀ではない。第一、慶應義塾の図書館や法学部資料室という限られた蒐集場所を利用する私には、資料のソースの点で、限界があることは言うをまたない。

誤記や、原稿から植字にいたる場合のミスを校正の段階で見落とすことも少なからずある。その意味で、何か瑕疵を発見された場合には、どうか、御指摘下さるよう利用者の方々に御願ひする次第である。

二 ビブリオグラフィは、言わば、学界の交通標識のようなものである。利用する人には、多少なりと便利であろうが、作成する者にとつては、割の合わないことおびただしい。面白くないし、この種の縁の下の力持ちのような仕事は、もつと性格が地味で、気の長い者のやることである。第一、オリジナリティーのないこと、甚

だしものがある。おそらく、このようなものを作ろうと思いついたことは、人に誇りうるオリジナルな研究方法といつてよからうが、始めてしまつて、今となつては、全く、迂遠な仕事にとりついてしまつたものと後悔している。

しかし、このビブリオグラフィが、他の研究者、殊に、西ドイツの研究者に、かなり利用されていることを聞くので、それを一つの心の支えにしているといつてよいであらう。

そもそも、こんなことを何故、始めたのだろう。学会に籍を置いて、夢中で、先学の研究業績を読んでいるうちに、一体全体、日本の刑法学は、本当に正確な情報をキャッチして研究を方向づけているのだろうかと不安になつたのが一つの動機である。

人よりも早く文献を手に入れ、一日でも早く読んで、一寸、換骨脱胎して、著作を外国文献で飾るといつた、稚氣愛すべき学説コンクールがあつた。使用した文献を愛蔵するのあまり、それを奥義のようにふところ深くしまいこんで、出典を明らかにすることを怠つたといつた時代がかなり続いた。

だが、私達が学会に入つた昭和三〇年代には、すでに戦前の比ではない情報量があつた。昔ながらの偏つた情報に固執しては大へんだという意識が強くなつたのは、ハイデルベルクから帰つてきてのことである。

そして、今、刑法の分野に関する限り、多くの同学の士の努力で、文字通り、情報化社会に対応しうる体制はととのつたといえる。

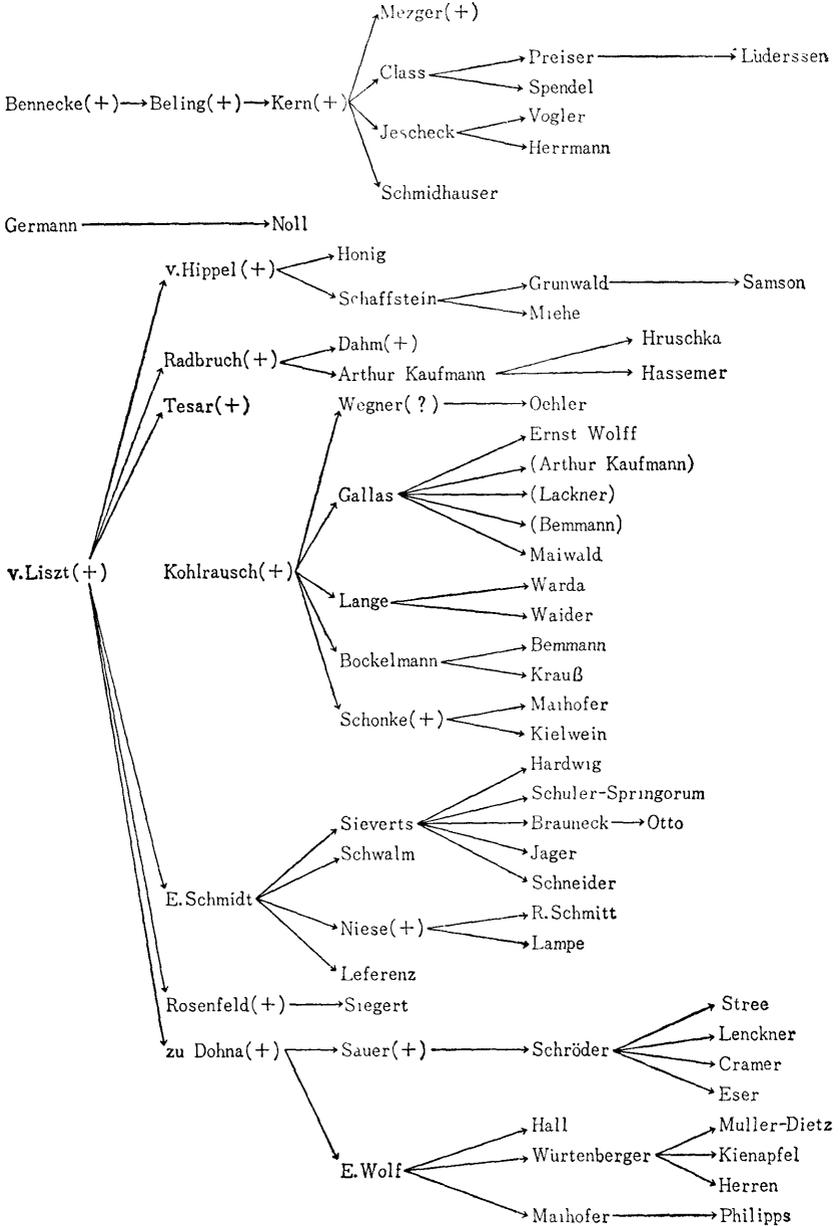
勿論、そうはいつても、文献をどう使うかというのは、趣味の問題でもある。いろいろな論文や著書を読んだからといつて、これでもかとはかりに博引傍証するには、一種の自己顯示というか、変執的な氣質があるだろう。情報社会では、いかに情報を処理するか、つまり、不必要な情報を切つて捨てることが重要である。論文も同じである。引用された文献の量を誇るのは、むしろナイーブな人間であつて、本当に物を知っている人は、引用に値しない文献をごたごたとかき集める者をむしろ驚きの目で見ているかも知れないのである。

たしかに、誰でも言うような片言雙句を、外国人の名前を引用して論理のあやに使うのは、悪趣味であらう。誰でも手にしているような一般的な文献で、注をうめるのは、一種のコンプレックスの表白のようなものかも知れない。教科書や注釈書には、モノグラフやオリジナルな論文のエッセンスを書いてあるから、便利といえその通りに違いないが、しかし、他人の目と頭で材料の選択がなされていることを考えると、原資料に当る必要性は残る。或る人のアイデアは、その人の全研究歴にどのような位置を占めているのかというところを見つめて、自分の頭で評価してゆきたいと思つて、あれこれしているうちに、ビブリオグラフィの作成という道に入つてしまつた。

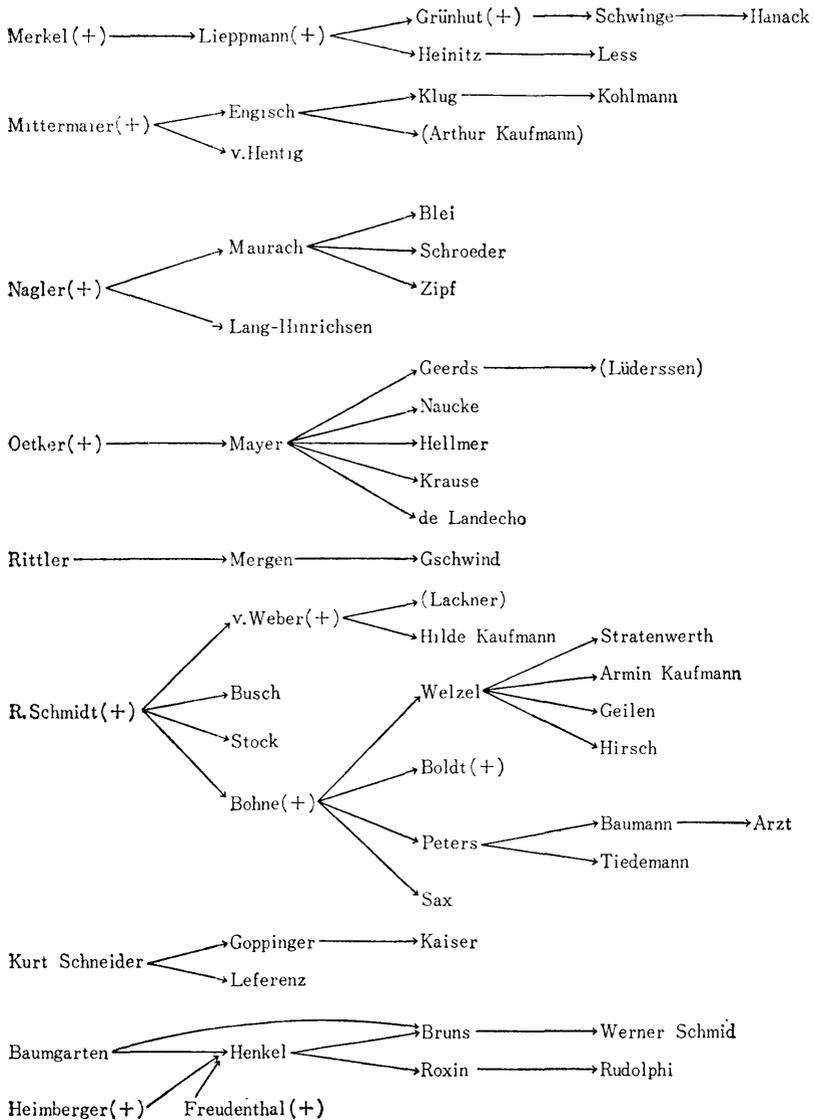
三 いずれにせよ、私の場合は、調べ始めたらとことんまでやってみるといふ、一種の偏執的な性癖がこのような基礎資料の蒐集に

第1表

西ドイツ  
刑法学の現状



第1表 (つづき)



## 第 2 表

→印は変動を意味し、その年代の後の( )内は転任先の大学名である。ao 又は apl は員外教授、oP は正教授である。AP は助教授、HP は名誉教授であり、PD は私講師、Hab は論文の提出を終つた者。Lb は講師である。\*印は1930年のフランク祝賀論文集に寄稿した者である。

### Augsburg

Bemmann (1971 oP)

### Berlin (戦後東独の大学となる)

v. Liszt→1919 (死亡)

E. Schmidt (1920 PD)→1921 (Breslau)

\*Kahl

\*Klee

\*Goldschmidt→1933 (ナチスにより追放)

\*Mannheim

Gleispach (?)

Kohlrausch (1919)→1948 (死亡)

Gallas (1933 PD)→1934 (Giessen)

Schönke (1935 PD)→1938 (Freiburg PD)

Stock (1938 oP)→1941 (Marburg oP)

Lange (1938 PD)→1940 (Jena ao)

Bockelmann (1939 PD)→1940 (Königsberg ao)

Lang-Hinrichsen (1949)→1949 (東独政府の政策に反抗、西独に逃亡)

### Freie Universität Berlin

Lange (1949 oP)→1951 (Köln)

Oehler (1951 ao)→1954 (oP)→1961 (Köln)

Heinitz (1952)→1971 (引退)

Blei (1962)

Sarstedt (1963 HP)

Lüttger (1967 oP)

### Bielefeld

Maihofer (1970 oP)

Eser (1970 oP)

Lampe (1971 oP)

### Bochum

Geilen (1964 oP)

Warda (1965 oP)

Cramer (1967 oP)

Blau (HP)

### Bonn

\*Grünhut (1924 oP)→1933 (追放)→(1952) (HP)→1964 (死亡)

zu Dohna→1944 (死亡)

Schwinge (1930 PD)→1932 (Halle)

v. Hentig (1934)→1936 (追放)→1951 (復帰)

v. Weber (1937)→1963 (引退)→1970 (死亡)

Busch (1947 apl)

Welzel (1952)

Stratenwerth (1956 PD)→1960 (Erlangen ao)

Armin Kaufmann (1957 PD)→1961 (Tübingen ao)→(再任 1963 oP)

Hilde Kaufmann (1962 PD)→1966 (Kiel oP)

Geilen (1963 PD)→1964 (Bochum oP)

Grünwald (1963 oP)

Hirsch (1965 PD)→1966 (Regensburg)

Rudolphi (1970 oP)

Samson (1970 PD)→1971 (Kiel)

Jakobs (1972 PD)

### Breslau (戦後ポーランドの大学となる)

Beling (1893 PD)→1896 (oP)→1902 (Giessen)

E. Schmidt (1921)→1926 (Kiel)

\*Nagler→1951 (死亡)

\*Wegner (1926 oP)→1926 (Münster)

Henkel (1935)→1945 Hamburg

Maurach (1936 Hab)→1940 (PD)→1941 (Königsberg ao)

Bruns (1938 PD)→1939 (Greifswald ao)

第2表 (つづき)

**Erlangen**

- \*Allfeld
- \*Köhler→1933 (追放, 行方不明)
- Württemberg (1940 ao)→1942 (oP)→1946 (Mainz)
- Heinitz (1948 oP)→1952 (Freie Univ. Berlin)
- Less (1950 PD)→1957 (ao)
- Bruns (1952 oP)
- Boldt (1955 oP)→1957 (死亡)
- Stratenwerth (1960 ao)→1961 (Basel)
- Warda (1962 oP)→1965 (Bochum)
- Schwalm (1965 oP)
- Kleinknecht (1968 HP)

**Frankfurt a. M.**

- \*Baumgarten→1933 (Basel)
- \*Heimberger
- M. E. Mayer→1923 (死亡)
- Freudenthal→1929 (死亡)
- Henkel (1930 PD)→1933 (ao)→1934 (Marburg)
- Class (1936)
- Preiser (1946 PD)→1949 (ao)→1954 (oP)
- Spendel (1953 PD)→1953 (ao)→1962 (Würzburg)
- Geerds (1964 oP)
- Kohlmann (1969 oP)→1971 (Köln)
- Lüderssen (1970 PD)→1971 (Göttingen)→(再任 oP 1971)
- Naucke (oP 1971)

**Freiburg**

- R. Schmidt (1891 oP)→1913 (Leipzig)
- \*Kern (1920 oP)→1936 (Tübingen)
- Engisch (1929 ao)→1932 (München ao)
- Class (1933 PD)→1934 (Giessen)
- Wolf (1931 oP)
- Hall (1933 PD)→1936 (Giessen)

- Schönke (1938 PD)→1940 (oP)→1953 (死亡)
- Württemberg (1939 PD)→1940 (Erlangen)→(再任 1955 oP)
- Maihofer (1953 PD)→1955 (Saarbrücken)
- Kielwein (1953 PD)→1956 (Saarbrücken)
- Jescheck (1954 oP)
- Schwalm (1961 HP)→1965 (Erlangen)
- R. Schmitt (1962 ao)
- Gerhard Schmidt (1965 PD)
- Kienapfel (1965 PD)→1968 (Linz)
- Müller-Dietz (1967 PD)→1969 (Saarbrücken)
- Vogler (1968 PD)
- Herren (1970 PD)
- Herrmann (1970 PD)
- Kaiser (1970 apl)

**Giessen (戦後マールブルク大学法学部と合併, 1965年再開)**

- Beling (1900 oP)→1902 (Tübingen)
- \*Mittermaier (1903 oP)→1938 (Heidelberg)
- Engisch (1929 PD)→1929 (Freiburg)
- v. Hentig (1929 PD)→1931 (Kiel)
- Class (1934 oP)→1936 (Frankfurt)
- Gallas (1934 ao)→1935 (Königsberg)
- Hall (1936 ao)→1950 (Marburg)
- Brauneck (1965 oP)
- Jäger (1966 oP)
- Tiedemann (1968 oP)
- Otto (1970 PD)→1971 (Marburg)

**Göttingen**

- v. Hippel (1899 oP) →1951 (死亡)
- \*Honig (1920 PD)→1925 (ao)→1931 (oP)→1933 (追放)
- Schaffstein (1930 PD)→1933 (Leipzig)→(再任 1954 oP)
- Siegert (1933 oP)
- Welzel (1937 ao)→1940 (oP)→1952(Bonn)

第2表 (つづき)

E. Schmidt (1945)→1948 (Heidelberg) Schüler-Springorum (1968 PD)→1968  
 Niese (1949 PD)→1951 (Mainz) (Göttingen) → (再任 1971 oP)  
 Bockelmann (1949 oP)→1959 (Heidelberg) Schneider (1969 PD)→1971 (Münster)  
 Schmidhäuser (1959 oP)→1962 (Hamburg) Hruschka (1971 oP)  
 Roxin (1962 oP)→1971 (München) Maiwald (1971 oP)

Grünwald (1963 PD)→1963 (Bonn)  
 Schüler-Springorum (1967 oP)→1971 (Hamburg)  
 Rudolphi (1968 PD)→1970 (Bonn)  
 Arzt (1970 oP)  
 Lüderssen (1971)→1971 (Frankfurt)  
 Miehe (1971 PD)

**Greifswald (戦後東独の大学となる)**

\*Merkel  
 v. Gemmingen (1933 PD)→(?)  
 Bruns (1939 oP)→1941 (Posen→戦後ポーランド領となる)→Erlangen  
 Peters (1942 oP)→1946 (Münster)

**Halle (戦後東独の大学となる)**

\*Finger→1934年 Gerichtssaal に発表したナチス刑法批判の論文未完のまま行方不明となつた  
 Schwinge (1932)→1936 (Marburg)  
 v. Gemmingen (1940 oP)→1943年より不明

**Hamburg**

Liepmann→1928 (死亡)  
 Wegner (1924 PD)→1926 (Breslau)  
 \*E. Schmidt (1929 oP)→1935 (Leipzig)  
 Sieverts (1932 PD)→1933 (Marburg)→(再任 1934 oP)  
 Tesar (1935 oP)→1949 (引退)→1965(死亡)  
 Henkel (1951 oP)  
 Hardwig (1953 PD)→1959 (ao)  
 Brauneck (1958 PD)→1965 (Giessen)  
 Roxin (1962 PD)→1962 (Göttingen)  
 Schmidhäuser (1962 oP)  
 Jäger (1966 PD)→1966 (Giessen)

**Heidelberg**

Mittermaier (1899 ao)→1900 (Bern) →(再任 1938 oP)→1956 (死亡)  
 Kohlrausch (1903 oP)→1904 (Königsberg)  
 \*Radbruch→1949 (死亡)  
 \*Engelhard  
 Wolf (1928 PD)→1929 (Rostock)  
 Dahm (1932 PD)→1934 (Kiel)  
 Engisch (1934 oP)→1953 (München)  
 E. Schmidt (1948)→1959 (引退)  
 Klug (1950 PD)→1956 (Mainz)  
 Gallas (1954 oP)→1971 (引退)  
 Leferez (1956 PD)→1959 (ao)→1963 (oP)  
 Bockelmann (1959 oP)→1963 (München)  
 Arthur Kaufmann (1960 PD)→1961 (Saarbrücken)  
 Hanack (1963 oP)→1970 (Mainz)  
 Wolff (1963 PD)→1967 (apl)→1971 (oP)  
 Läckner (1964 oP)  
 Bemmann (1965 PD)→1971 (Augsburg)  
 Maiwald (1970 PD)→1971 (Hamburg)

**Jena (戦後東独の大学となる)**

Grünhut (1923 ao)→1924 (Bonn)  
 \*Gerland→1944 (死亡)  
 \*v. Weber (1928 oP)→1937 (Bonn)  
 Lange (1940 ao)→1943 (oP)→1949 (Freie Univ. Berlin)

**Kiel**

v. Hippel (1891 PD)→1892 (Strassburg)  
 E. Schmidt (1926 oP)→1929 (Hamburg)  
 \*Wolf (1930)→1931 (Freiburg)  
 v. Hentig (1931 oP)→1934 (Bonn)

第2表 (つづき)

- Dahm (1934)→1939 (Leipzig)→(再任 1950 (Münster)  
 oP)→1963 (死亡) \*Tesar (1920 oP)→1935 (Hamburg)  
 Schaffstein (1935)→1941 (Strassburg) Gallas (1935 oP)→1940 (Tübingen)  
 H. Mayer (1944 oP)→1963 (引退) Boldt (1936 PD)→1938 (oP)→従軍  
 Schröder (1948 oP)→1955 (Tübingen) Bockelmann (1940 ao)→1942 (oP)→1949  
 Geerds (1959 PD)→1964 (Frankfurt) (Göttingen)  
 Hellmer (1961 PD)→1966 (apl) Maurach (1941 ao)→1944 (oP)→1947  
 Naucke (1964 PD)→1964 (oP)→1971 (München)  
 (Frankfurt)  
 Krause (1965 PD)→1967 (マンハイム経済 大学) Leipzig (戦後は東独の大学となる)  
 H. Kaufmann (1966 oP)→1970 (Köln) R. Schmidt (1888 PD)→1890 (ao)→1891  
 de Landecho (1970 PD) (Freiburg)→(再任 1913 oP)  
 Samson (1971 oP) \*Ebermayer  
 \*Lowe  
 \*Exner→1933 (München)  
 v. Weber (1924 PD)→1926 (Prag)  
 Köln Stock (1931 PD)→1938 (Berlin)  
 Busch (1933 PD)→(ao)→1947 (Bonn)  
 Aschaffenburg→1934 (追放)→1944 (死亡) Schaffstein (1933)→1935 (Kiel)  
 Baumgarten (1920 oP)→1923 (Basel) E. Schmidt (1935)→1945 (Göttingen)  
 \*Bohne (1923 oP)→1957 (死亡) Dahm (1939)→1941 (Strassburg)  
 Coenders→1963 (死亡) Gallas (1942)→1944 (Tübingen)  
 Peters (1931 PD)→1942 (Greifswald oP)  
 Boldt (1935 PD)→1936 (Königsberg)  
 Welzel (1935 PD)→1937 (Göttingen)  
 Lange (1951 oP)  
 Sax (1952 PD)→1957 (Würzburg)  
 Lang-Hinrichsen (1954 HP)→1963  
 (Mainz)  
 Klug (1961 oP)  
 Oehler (1961 oP)  
 Warda (1961 PD)→1962 (Erlangen)  
 Kohlmann (1969 PD)→1969 (Frankfurt)  
 →(再任 1971)  
 Hilde Kaufmann (1970 oP)  
 Waider (1970 PD)→1970 (ao)  
 v. Hippel (1971 PD)  
 Mainz (1946年に法経学部新設)  
 Würtenerger (1946)→1955 (Freiburg)  
 Mergen (1948 ao)  
 Niese (1951)→1963 (死亡)  
 Klug (1956)→1961 (Köln)  
 R. Schmitt (1957 PD)→1962 (Freiburg)  
 Noll (1962)→1969 (Zürich)  
 Lang-Hinrichsen (1963 oP)  
 Lampe (1966 PD)→1971 (Bielefeld)  
 Gschwind (1967 PD)  
 Hanack (1970 oP)  
 Königsberg (戦後はソ連領となつた)  
 Kohlrausch (1904 ao)→1906 (oP)→1914  
 (Strassburg)  
 \*Sauer (1916 PD)→1921 (oP)→1935  
 Mannheim (1968年に経済単科大学から総合大学に昇格)  
 Krause (1967 oP)  
 Zipf (1970 oP)

第2表 (つづき)

西  
ト  
イ  
ッ  
刑  
法  
学  
の  
現  
状

**Marburg**

- \*Mezger (1925 oP)→1932 (München)
- Sieverts (1933 ao)→1934 (Hamburg)
- Zimmerl (1934)→(Wien ?)
- Henkel (1934 ao)→1935 (Breslau)
- Schwinge (1936)→1940 (Wien)→  
1946(再任)→1971 (引|退)
- Stock (1941)→1948 (Saarbrücken)
- Hall (1950 Lb)→1958 (ao)→1960 (oP)
- Krebs (1956 HP)
- Hanack (1961 PD)→1963 (Heidelberg)
- Otto (1971 oP)

**München**

- \*Calker
- \*Doerr
- \*Beling (1913)→1933 (死亡)
- v. Frank→1934 (死亡)
- Kern (1919 PD)→1920 (Freiburg)
- Exner (1933 oP)→1947 (死亡)
- Mezger (1932 oP)→1962 (死亡)
- Engisch (1932 ao)→1934 (Heidelberg)  
→(再任 1953 oP)→1968 (引|退)
- Maurach (1947 ao)→1948 (oP)→1971 (引|  
退)
- Blei (1958 PD)→1960 (Lausanne)
- Bockelmann (1963 oP)
- Arthur Kaufmann (1968 oP)
- Schroeder (1968 PD)→1968 (Regensburg)
- Krauβ (1969 PD)→1970 (Saarbrücken)
- Zipf (1969 PD)→1970 (Mannheim)
- Hruschka (1970 PD)→1971 (Hamburg)
- Roxin (1971 oP)
- Hassemer (1972 PD)

**Münster**

- Wegner (1926 oP)→1954 (東独亡命)
- Drost→1956 (死亡)
- Sauer (1935 oP)→1962 (死亡)
- \*Rosenfeld
- Siegert (1931 PD)→1933 (Göttingen)

- Schröder (1939 PD)→1943 (Graz)
- Peters (1946 oP)→1963 (Tübingen)
- Oehler (1949 PD)→1951 (Freie Univ.  
Berlin)
- Baumann (1955 PD)→1960 (Tübingen)
- Stree (1962 oP)
- Lenckner (1964 oP)
- Wessels (1965 oP)
- Schneider (1971 oP)

**Regensburg (1965年に開講)**

- Hirsch (1966 oP)
- Schroeder (1968 oP)

**Rostock (戦後東独の大学となる)**

- v. Hippel (1895 oP)→1899 (Göttingen)
- Wolf (1929)→1930 (Kiel)
- H. Mayer (1930 ao)→1936 (oP)→1944  
(Kiel)

**Saarbrücken (1947年, フランスの手で建  
設, 1957年西独の大学として新発足)**

- Stock (1948 oP)→1951 (Würzburg)
- Seelig→1955 (死亡)
- Maihofer (1955 ao)→1956 (oP)→1970  
(Bielefeld)
- Kielwein (1956 ao)→1957 (oP)
- Arthur Kaufmann (1961 oP)→1968  
(München)
- Müller-Dietz (1969 oP)
- Krauβ (1970 oP)
- Philipps (1971 PD)→1972 (AP)
- Baratta (1971 oP)
- Kühne (1972 AP)

**Tübingen**

- Beling (1902 oP)→1913 (München)
- \*Schoetensack
- \*Hegler→1937 (死亡)
- Mezger (1922 ao)→1925 (Marburg)
- Kern (1936 oP)→1957 (引|退) →1972 (死  
亡)
- Gallas (1940 oP)→1942 (Leipzig)→

第 2 表 (つづき)

(再任 1944 oP)→1954 (Heidelberg)	Tiedemann (1968 PD)→1968 (Giessen)
Jescheck (1949 PD)→1954 (Freiburg)	Kaiser (1968 PD)→1970 (Freiburg)
Schröder (1955 oP)	Eser (1969 PD)→1970 (Bielefeld)
Schmidhäuser (1955 PD)→1959 (Göttingen)	Arzt (1969 PD)→1970 (Göttingen)
Stree (1959 PD)→1962 (Münster)	
Baumann (1960 oP)	<b>Wurzburg</b>
Armin Kaufmann (1961 ao)→1963 (Bonn)	*Oetker→1938 (死亡)
Göppinger (1962 oP)	Mayer (1928 PD)→1930 (Rostock)
Peters (1963 oP)	Stock (1951 oP)
Lenckner (1963 PD)→1964 (Münster)	Sax (1957 oP)
Cramer (1966 PD)→1967 (Bochum)	Spendel (1962 oP)

赴かせることになつた  
のであろう。

この中にとりあげら  
れた資料の大部分は、  
慶應義塾にあるもので

あるから、活用を希望  
される方は、御遠慮な  
く御連絡下さるよう

に申し上げておく。すべ  
ては、研究のために開  
かれていたのである。

これだけ資料をかか  
え、かつその所在が明  
示をれていて、利用し  
ないとすれば、無為に

終つてゐる者が怠惰で  
あるとしか言いようが  
ないし、死蔵しておく

ことは、文化の冬眠を  
意味する。

今回の追録は、昭和  
四七年六月末日現在  
被見しえた資料を用い

て作成された。校正の段階で知りえた文献は技術上の理由で、挿入  
しえないかも知れない。

印刷に廻つてから以後、或いは本資料の公刊以後の論著が登載さ  
れていないではないかなどという無理な注文は、私にはなく、一  
つ、神様だけでも言つて欲しい。

資 料 編

略語表

以下において使用する略語は、次の通りである。

- Ann. Uni. Sar. .... Annales Universitatis Saraviensis
- AKrim. .... Archiv für Kriminologie
- Ann. int. crim. .... Annuaire internationale de criminologie
- AP. .... Archivio Penale
- ARSP. .... Archiv für Recht- und Sozialphilosophie
- Ärztl. Mittlg. .... Ärztliche Mittheilung
- Ärztl. Wschr. .... Ärztliche Wochenschrift
- BB. .... Betriebsberater
- Beitr. Sex. Forsch. .... Beiträge zur Sexualforschung
- Br. Ärzte Bl. .... Bremer Arztblatt
- DAR. .... Deutsches Autorecht
- Deusch. Med. Wschr. .... Deutsche Medizinische Wochenschrift
- DRIZ. .... Deutsche Richterzeitung
- DSTR. .... Deutsches Steuerrecht

- DVBl. … Deutsches Verwaltungsblatt  
 DZschr. f. ger. Med. … Deutsche Zeitschrift für gerichtliche  
 Medizin  
 Euf od. ZF … Ehe und Familie im privaten und öffentlichen  
 Recht (ab 1962 Zeitschrift für das gesamte Familien-  
 recht)  
 Fortschr. Neurol. … Fortschritte der Neurologie, Psychiatrie  
 und ihrer Grenzgebiete  
 GA … Goldammer's Archiv für Strafrecht  
 Hw. d. Krim. … Handwörterbuch der Kriminologie  
 JBl. … Juristische Blätter  
 JBOR … Jahrbuch für Ostrecht  
 JJB. … Juristenjahrbuch  
 JR … Juristische Rundschau  
 JurA … Juristische Analyse  
 JuS … Juristische Schulung  
 Jwl. … Jugendwohl  
 JZ … Juristenzeitung  
 Krim. … Kriminalistik  
 Krim. Geg. Fr. … Kriminologische Gegenwartsfragen  
 MDR … Monatschrift für Deutsches Recht  
 Med. Klin. … Medizinische Klinik  
 Med. W. … Medizinische Welt
- MKrim. … Monatschrift für Kriminologie und Strafrechts-  
 reform  
 NJW … Neue Juristische Wochenschrift  
 off. Verw. … Öffentliche Verwaltung  
 RdJ … Recht der Jugend  
 Rev. int. d. dr. pén. … Revue internationale de droit pénal  
 Rev. sci. crim. … Revue de science criminelle et de droit  
 pénal comparé  
 ROW … Recht in Ost und West  
 SchwJZ … Schweizerische Juristenzeitung  
 SchwZStv … Schweizerische Zeitschrift für Strafrecht  
 St. Gen. … Studium Generale  
 St. Lex … Staatslexikon  
 UJ … Unsere Jugend  
 Univ. … Universitätszeitung  
 ZBl. ges. Neurol. … Zentralblatt für die gesamte Neurologie  
 ZRP … Zeitschrift für Rechtspolitik  
 ZStv-Vo. … Zeitschrift für Strafvollzug  
 ZStrW … Zeitschrift für die gesamte Strafrechtswissenschaft
- ブルント (Gunter Arzt)  
 一九三六年一〇月四日『テュービンゲンに生れた。学位を取得  
 した論文が』Die Ansicht aller billig und gerecht Denkenden,  
 九七 (一七二五)

1962 である。その後アメリカに留学し、一九六五年にキャロリナーニア大学(ノースカーロー)で修士を取得した。チュービンゲン大学のハンマン教授の助手として、一九六六年刑法改正対案の作成作業に協力をした。一九六九年に、チュービンゲン大学私講師となったが、教授資格請求論文は、'Der strafrechtliche Schutz der Intimsphäre, 1970'である。一九七〇年冬学期に、引退したシャムスタイン教授の後任として、マッテヤンマン大学正教授に就任した。

著書  
Der befangene Strafrichter—Zugleich eine Kritik an der Beschränkung der Befangenheit auf die Parteilichkeit, 1969.  
Willensmangel bei der Einwilligung, 1971.

Zur Erfolgsabwendung beim Rücktritt vom Versuch. GA. 1964. S. 1 ff.  
Notwehr gegen Erpressung? MDR. 1965. S. 344 ff.  
Die Reform unseres politischen Strafrechts. Frankfurter Hefi. XXI. 1966. S. 823 ff.

Zur Fehlerberichtigung bei Abänderungsklagen nach § 323 ZPO. ZF. 1966. S. 395 ff.  
Einwilligung zur Heilbehandlung untergebrachter Kranker? NJW. 1967. S. 668 ff.  
Bedingter Entschluss und Vorbereitungshandlung. JZ. 1969. S. 54 ff.

Der Strafrechtsfall. Eine Anleitung zur Lösung strafrechtlicher Fälle. Jus. 1970. S. 511 ff.  
Baumann-Arzt, Kartellrecht und allgemeines Strafrecht. ZHR. Bd. 134. 1970. S. 24 ff.  
Ausschließung und Ablehnung des Richters im Wiederaufnahmeverfahren. NJW. 1971. S. 1112 ff.  
Die Delikte gegen das Leben. ZStrW. Bd. 83. 1971. S. 1 ff.

ベトナム( Jürgen Baumann)  
周知のよほど致案グループのリーマー格であり、多作家である。著書(編輯)

Der Aufstand des schlechten Gewissens. Ein Diskussionsbeitrag zu Verjährung der NS-Gewaltverbrechen, 1965.  
Kleine Streitschriften zur Strafrechtsreform, 1965.  
Einführung in die Rechtswissenschaft, 1967, 2. Aufl. 1970.  
Programm für ein neues Strafgesetzbuch, 1968. (總論・高次部)・  
刑罰とベトナム(三三三)・ヤ図頁(二七)・刑法總論書(第一卷)・四(九一頁以下)・邦訳・法政大学説書(昭和四十七年)  
Paragraph 175. Über die Möglichkeit, die einfache, nicht jugendgefährdende und nicht öffentliche Homosexualität unter Erwachsenen strafrei zu lassen. (Zugleich ein Beitrag zur Sakularisierung des Strafrechts), 1968.  
Beschränkung des Lebensstandards anstatt kurzfristiger Frei-

heitsstrafe, 1968.

Weitere Streitschriften zur Strafrechtsreform, 1969.

Aufsätze und Vorträge zum Verkehrsstrafrecht, 1969.

Reform des studentischen Disziplinarrechts, 1969

Misslingt die Strafrechtsreform ? 1969.

Grundbegriffe und Verfahrensprinzipien des Strafprozessrechts, 1969.

Grundbegriffe der Zivilprozessordnung, 1970

Baumann-Feser, Beschleunigung des Zivilprozesses. Eine Synopse der Vorschläge mit kritischen Anmerkungen, 1970.

Strafrechtsreformgesetz. Ergänzung zum Lehrbuch Strafrecht<sup>1</sup> Allgemeiner Teil, 5. Aufl. 1968, 1970.

Das Abtreibungsverbot des § 218, 1971.

Sicherheit und Ordnung in Vollzugsanstalten ? 1972.

Baumann-Dähn, Studien zum Wirtschaftsstrafrecht, 1972.

羅大

Der Lichtblick im Disziplinarrecht. JZ. 1967, S. 657 ff.

Die Reform des Allgemeinen Teils eines Strafgesetzbuches.

DS&Ref. 1967, S. 56 ff.

Die Reform des Strafvollzuges, ebenda, S. 89 ff.

Die Strafvollzugsreform aus der Sicht des Alternativ-Entwurfes der Strafrechtslehrer. St. Vollzug Deutschl. 1967, S. 64 ff.

Was erwarten wir von der Strafrechtsreform ? Programm.

1968, S. 14 ff. (綜合・中山第一・寛谷英三1卷三・四頁九六頁以下) 邦語・佐伯龍記・中山・九頁以下)

Der Alternativ-Entwurf der Strafrechtslehrer—eine Strafrechtsabweichung ? ebenda, S. 128 ff. (綜合・中條謙蔵・寛谷英三1卷三・四頁一三二頁以下) 邦語・佐伯龍記・中條・一三二頁以下)

Was erwarten wir von der Strafrechtsreform ? Festschr. f. Kern. 1968, S. 21 ff.

Konsequenzen aus einer Reformarbeit—nicht aufgenommene Vorschläge für die Strafrechtsreform. Gedächtnisschr. Radbruech. 1968, S. 337 ff.

Schuld und Sühne als Grundproblem heutiger Strafrechtspflege. Misslingt. 1968, S. 8 ff.

Der Alternativ-Entwurf zum Strafgesetzbuch und der Strafvollzug, ebenda, S. 120 ff.

Input oder output ? Zur Grundsatzzresolution des FVR zur Reform des juristischen Studiums. Der Versuch einer "Entlastung". Jus. 1969, S. 245 ff.

Wird die U-Haft umfunktioniert ? JZ. 1969, S. 134 ff.

Ethische Bindung des Bürgers durch das Strafrecht. MKrim. 52, Jg. 1969, S. 158 ff.

Vorsicht bei Verjährung von NS-Gewaltverbrechen ! NJW. 1969, S. 1279 ff.

Ordnung und Unordnung. ZRP. 1969, S. 34 ff.

Baumann-Frosch, Der Entwurf des 3. Strafrechtsreformgesetzes. Schutz des Gemeinschaftsfriedens. JZ. 1970. S. 113 ff.

Resozialisierungsgedanke und Rechtsgüterschutz im 1. und 2. Strafrechtsreformgesetz. DRiZ. 1970. S. 2 ff

Schutz des werdenden Lebens—nötig, aber wie? in: Baumann, Das Abtreibungsverbot des § 218, 1971. S. 13 ff.

Eine Auseinandersetzung mit unseren Gegnern, ebenda. S. 301 ff.

Die Versäumnisse der neuen StVO. DAR. 1971. S. 152 ff.

Haftpflichtversicherung mit Selbstbeteiligung—Hilferuf eines überforderten Strafrechts. DAR. 1971. S. 289 f.

Zum Zweignungsbegriff. GA. 1971. S. 306 ff.

Änderung des Deutschen Richtergesetzes? JZ. 1971. S. 87 ff.

Der lange Weg des 4. Strafrechtsreformgesetzes. ZRP. 4. Jg. 1971. S. 129 ff.

Die Strafvollzugsreform aus der Sicht des Alternativ-Entwurfs der Strafrechtslehrer, in: Kaufmann, Die Strafvollzugsreform. 1971. S. 21 ff.

Versteigerungssitten im Kunsthandel und § 263 StGB. NJW. 1971. S. 23 ff.

Über die notwendigen Veränderungen im Bereich des Vermögensschutzes. JZ. 1972. S. 1 ff.

Sicherheit und Ordnung in der Anstalt. Einige kritische Erwägungen zu §§ 72 ff. des Entwurfs eines Strafvollzugsgesetzes.

FSchr. f. Maurach. 1972. S. 561 ff.

ギンター・ベマン

最も新しい大学であるマンハイム大学の正教授として、一九七一年冬学期に赴任した。

論文

Für und wider die Vereinheitlichung der Freiheitsstrafe. GA. 1967. S. 129 ff.

Über die strafrechtliche Verantwortlichkeit des Richters. GSchr. Radbruch. 1968. S. 308 ff.

Zum Wesen der Rechtsbeugung—Karl Engisch zum 70. Geburtstag in Verehrung und Dankbarkeit gewidmet. GA. 1969. S. 65 ff.

Über Rechtfertigungs- und Entschuldigungsgründe bei der Rechtsbeugung. in: Recht und Politik 1969. H. 3. S. 95 ff.

Zur Frage der Strafwürdigkeit der Abtreibung. ZStW. Bd. 83. 1971. S. 81 ff.

ヘルマン・ブレ

ブレの教授資格請求論文のいずれも、今もつて不明である。ただ、旧稿まで、メッガーに提出したと推測してはならない。また、マンハイムとボンリッパホンに提出したことが、旧稿を各々の掲載させた。



recht" bemessener Strafe. Bedarft es zur vollen revisionsgerichtlichen Strafzumessungskontrolle der Einführung der "Urteilstrü-ge"? F.Schr. Englisch. 1969. S. 708 ff.

Ablehnung eines Staatsanwalts aus den Gründen des § 24 St-PO, insbesondere wegen Besorgnis der Befangenheit?, in: Ak-tuelle Probleme des Internationalen Strafrechts. Beiträge zur Gestaltung des Internationalen und eines Supranationalen Straf-rechts. Geburtstagsgabe für Gritzner. 1970. S. 42 ff.

Ungeläutete verfahrensrechtliche Fragen des Contergan-Prozesses. F.Schr. f. Maurach. 1972. S. 469 ff.

トミンナ (Richard Busch)  
現在在「公議なる刑罰」の「トミンナ」大注釈書の著者としての力量の  
へんじらる。

著者

LK. 9. Aufl. (§§ 43—50a), 1970. (§ 357), 1972.

編者

Zur Teilnahme an den Handlungen des § 49 a StGB. F.Schr. f. Maurach. 1972. S. 245 ff.

カトク (Wilhelm Class)

Die Kausalität der Beihilfe. F.Schr. f. Stock. 1966. S. 115 ff.

カトロー (Peter Camer)  
京都における国連会議に出席のため来日したとき、知り合った。  
一九三二年生れたそうである。ドイツの若い世代に最近見られるタ  
イプの小柄で、頭の回転の速そうな人である。一九六七年にホッフ  
ム大法学教授となった。教授資格請求論文は、シトローター教授に  
提出した Vermögensbegriff und Vermögensschaden im Strafre-  
cht, 1968. p. 483°

著者

Das Zeugnisverweigerungsrecht von Presse und Rundfunk. 1968.

Politisches Strafrecht (Einführung, S. 7 ff.)

Die Rechtsbeschwerde nach dem Gesetz über Ordnungswidrig-keiten, 1969.

Grundbegriffe des Ordnungswidrigkeitenrechts, 1969.

Straßenverkehrsrecht. StVO. StGB, 1971.

Grundwerk zum Verkehrs- und Ordnungswidrigkeitenrecht. 1971

VOR. StVO. Entscheidungssammlung zur Zeitschrift für Ver-kehrs- und Ordnungswidrigkeitenrecht, 2Bde. 1972.

編者

Die Austauschbarkeit der Entziehung der Fahrerlaubnis gegen ein Fahrverbot. NJW. 1968. S. 1764 ff.

Zur Abgrenzung der Transport- und Straßenverkehrsgefährdung nach § 315 d StGB. JZ. 1969. S. 412 ff.

Die Berufungsfähigkeit auf Geldbuße lautender Urteile im Strafverfahren. NJW. 1969. S. 1800 f.

Die Beleidigung an einer Zuwerdhandlung nach § 9 OWiG.

NJW. 1969. S. 1929 ff.

Nochmals: Zum Einheitstäter im Ordnungswidrigkeitenrecht.

NJW. 1970. S. 114 ff.

Die neue Straßenverkehrsordnung. Jur.A. 3. Jg. 1971. S. 13 ff., 37 ff.

Kausalität und Funktionalität der Täuschungshandlung im Rahmen des Betrugstatbestandes. JZ. 1971. S. 415 ff.

Verschuldete Zurechnungsfähigkeit—*actio libera in causa*—§ 330 a StGB. JZ. 1971. S. 766 ff.

Abmündungsbedürfnis und staatlicher Sanktionsanspruch. Bemerkungen zu einer Reform der Verfallenseinstellung aus Gründen der Opportunität. FSchr. f. Maurach. 1972. S. 487 ff.

ハンギンニ (Karl Engisch)

一九六八年に引退し、その地位をフノトマール・カウフマンに譲つた。立派な蔵書を持ち、今後は、思索と著作に明け暮れることになり。

著書

Engisch-Hallermann, Ärztliche Aufklärungspflicht aus rechtlicher und ärztlicher Sicht, 1970

Auf der Suche nach der Gerechtigkeit. Hauptthemen der Rechtsphilosophie, 1971.

論文

刑法雑誌一九七一年一〇〇頁に題する「Form und Stoff in der Jurisprudenz. Gedächtnisschr. f. Radbruch. 1968. S. 60 ff.」は「Form und Stoff in der Jurisprudenz. Gedächtnisschr. f. Radbruch. 1968. S. 60 ff.」の誤りである。

Max Weber als Rechtsphilosoph und als Rechtssoziologe. Max Weber Gedächtnisfeier Ludwig Maximilian Univ. 1966. S. 67 ff.

Um die Characterschuld. MKrim. 1967. S. 108 ff. Form und Stoff in der Jurisprudenz. FSchr. f. F. v. Hippel. 1967. S. 63 ff.

Gustav Radbruch als Rechtsphilosoph. GSchr. Radbruch. 1968. S. 60 ff.

Gerhard Husserls »Negatives Sollen im Bürgerlichen Recht« im Lichte der Strafrechtsdogmatik. FSchr. Husserl. 1969. S. 168 ff.

Wolfgang Mittermaier (1867-1956). Zf Str Vo. 20. Jg. 1971. S. 173 ff.

ハーサー (Albin Eser)

一九三五年一月二十六日に、ウンターフランケン州のライダースバッハに生れた。一九六二年に、ヴェルツブルク大学のザックス教授に提

出した論文 Die Abgrenzung von Straftaten und Ordnungswidrigkeiten, 1961. は法学博士を取得し、次いで、アメリカで法学博士、ハーローン大学で、比較刑法の論文を提出して修士号を取得した。

The Principle of 'Harm' in the Concept of Crime: A comparative analysis of the criminally protected legal interests. 1963. (本誌の特載 in: Duquesne University Law Review 4(1966)S. 345-417.) のの後、ハーローン大学のシムローター教授の助手となり、注釈書の改訂などに協力してゐる間、準備を進め、一九六八年一月に教授資格を取得した。請求論文は、Die strafrechtlichen Sanktionen gegen das Eigentum Dogmatische und rechtspolitische Untersuchungen über Einziehung, Unbrauchbarmachung und Gewinnverfall. 1969. である。

コンラート・マインツ、マインハイムの諸大学で短期間ずつ、授業活動を続けた後、一九七〇年六月に、新設のボンノルンペナ大学に教授に招聘され、赴任した。

#### 著書

Wahrnehmung berechtigter Interessen als allgemeiner Rechtfertigungsgrund. Zugleich ein Versuch über Rechtsgüterschutz und evolutives Recht, 1969.

Gesellschaftsgerichte in der Strafrechtspflege. Neue Wege zur Bewältigung der Kleinkriminalität in der DDR, 1970.

Strafrecht. 1. 1971. 2. 1972.

#### 論文

Die Beeinträchtigung der wirtschaftlichen Bewegungsfreiheit als Betrugsschaden. GA. 1962. S. 289 ff.

Das Verwertungsverbot des § 252 StPO und die Vernehmung des vernehmenden Richters. NJW. 1963. S. 234 ff.

Zur Zweignungsabsicht beim Diebstahl. Jus. 1963. S. 477 ff.

Zum Verhältnis von Gewaltanwendung und Wegnahme beim Raub. NJW. 1965. S. 377 ff.

Das rechtliche Gehör im Strafbefehls- und Strafverfügungsverfahren. JZ. 1966. S. 660 ff.

Die allgemeinen Lehren des amerikanischen Strafrechts. Zugleich Besprechung von Honig, Das amerikanische Strafrecht. ZStW. Bd. 79. 1967. S. 193 ff.

Aussagefreiheit und Beistand des Verteidigers im Ermittlungsverfahren. Rechtsvergleichende Beobachtungen zur Rechtsstellung des Beschuldigten. ZStW. Bd. 79. 1967. S. 565 ff.

Eser-Robinson, Le droit du prévenu au silence et son droit à être assisté par un défenseur au cour de la phase préjudiciaire en Allemagne et aux Etats-Unis d'Amérique. Rev. sci. crim. 1967. p. 567 ff.

Die Sexualität in der Strafrechtsreform, in: Jur A. 1970. S. 218. ff. 242. ff.

Informationsfreiheit und Einziehung. Zu einigen Grundsatzfragen in neuen Einziehungsentscheidungen des BVerfG. NJW.

1970. S. 784 ff.

Freiwillige Sterilisation und Strafrechtsreform. *Med. W.* 1970. S. 1751 ff.

Absen von Strafe—Schuldanspruch unter Strafverzicht. Rechtsvergleichende kriminalpolitische Bemerkungen, namentlich im Blick auf das DDR-Strafrecht. *F.Schr. f. Maurach* 1972. S. 257 ff.

ガリス (Wilhelm Gallas)

一九七一年の回顧

著書

Beiträge zur Verbrechenlehre, 1968. (1冊の録々・公田康成・大倉館法学六六号五四頁以下)

論文

Der dogmatische Teil des Alternativ-Entwurfs. *ZStrW.* Bd. 80. 1968. S. 1 ff.

Verleitung zum Falscheid. *F.Schr. Englisch.* 1969. S. 600 ff.

ゲールン (Friedrich Geertz)

著書

Die Kriminalität als soziale und als wissenschaftliche Problematik, 1965 (邦訳・諸沢英道・高沢・中山訳編・犯罪学リーディングブック昭和四十六年 一三二頁以下)

Simson-Geertz: Straftaten gegen die Person und Stillschleichen

西ノヘン刑法学の現状

delikten in rechtsvergleichender Sicht, 1969. (録々・田尻邦一・邦

訳学々六六号四六頁以下)

Einzeln und Staatsgewalt im geltenden Strafrecht, 1970.

論文

Zur Kriminologie von Raub und Erpressung *Neue Polizei* 1962. S. 178 ff.

Zur Kriminologie des Einbruchs und Raubes. *Neue Polizei* 1966. S. 116 ff., 147 ff.

Zur Kriminologie der Freiheitsdelikte. *Taschenbuch für Kriminalisten.* Bd. 17. 1967. S. 17 ff.

Auskunftsverweigerungsrecht oder Schweigebefugnis? Zur Problematik der 55, §§ 56 StPO. *F.Schr. Stook.* 1966. S. 171 ff.

Über die Erscheinungsformen der Strafverleitung. *F.Schr. v. Hentig.* 1967. S. 133 ff.

Zur Rückfalskriminalität Erwachsener. *Krim. Geg. Fr. Heft* 8. 1968. S. 27 ff.

Probleme der Wirtschaftskriminalität und ihrer Bekämpfung. *Krim.* 1968. S. 234 ff., 300 ff., 356 ff.

Zur Problematik der strafrechtlichen Deliktstypen. *F.Schr. Englisch.* 1969. S. 406 ff. (録々・福井厚・法学雑誌叢八七卷四号七四頁以下)

Zur strafrechtlich verbindlichen Extraktionsgrenze bei der Herstellung von Kaffee-Extrakt. *Deutsche Lebensmittel-Rundschau* 1969. S. 5 ff.

Eine Erweiterung, ebenda. 1969. S. 178 ff.

論文

Gaunertum. Hw. d. Deutschen Rechtsgeschichte. 1. Bd. 1964—69.

Garantempfinden aus ehelicher und ehähnlicher Gemeinschaft.

S. 4 ff.

EF. 1961. S. 147 ff.

Ein Weg in die Zukunft der Kriminalpolizei. International Police Association. Vol. 14, 1969. Heft 58. p. 4 ff.

Beschränkte Deliktfähigkeit, Verschulden und Billigkeitshaftung (§ 829 BGB). ZF. 1965. S. 401 ff.

Verbrechen und Verbrechen als Gegenstand der Forschung. Über den Beitrag der Wissenschaften in Vergangenheit, Gegenwart und Zukunft. Grundlagenforschung und Kriminalpolizei. 1969. S. 13 ff.

Das Leben des Menschen in den Grenzen des Rechts—Zu den Wandlungen des Todesbegriffs und zu neuen Schutzproblemen des werdenden Lebens. ZF. 1968. S. 121 ff.

Rechtstriedensdelikte. Hw. d. Krim. Bd. 3. 1969. S. 1 ff.

Die deutsche Strafrechtsreform in der Kritik. Eine antikritische Stellungnahme zu Leonhard Reinisch. Die deutsche Strafrechtsreform. ZF. 1968. S. 285 ff.

Rechtspflegedelikte, ebenda. S. 11 ff.

Neue juristisch-medizinische Grenzprobleme. JZ. 1968. S. 145 ff.

Berthold Freudenthal. Ein Wissenschaftler und sein Wirken.

Lebensgefährdende Drohung als Gewalt im § 251 StGB. JZ. 1970. S. 521 ff.

ZfStV. 1969. S. 251 ff.

Probleme der Organtransplantation. JZ. 1971. S. 41 ff.

Über die Festnahme von Störern nach § 164 StPO. FSchr. f. Maurach. 1972. S. 517 ff.

Zur Problematik des schuldauflösenden Affekts. FSchr. f. Maurach. 1972. S. 173 ff.

ガイレン (Gerd Geilen)

一九三一年八月一〇日に「ライオンマンのメンゴマンショー」に生れた。

ゲミュンガー (Hans Göppinger)

に生れた。

学位論文は「Parlamentnötigung (§ 105 StGB)」。1957年。

論文

一九六四年に「ボンム大学正教授に就任して」(田橋で「一九六五年としたのは誤まりである」)。

Kriminologie, 1971. (紹介 吉益脩夫・犯罪学雑誌三七巻五・六号三〇八頁以下)

現在、株式法の刑罰規定について、注釈を執筆中であるという。

論文

Probleme interdisziplinärer Forschung in der Kriminologie.

FSchr. Kern. 1968. S. 201 ff.

Psychische und soziale Auffälligkeiten bei nicht geisteskranken

Delinquenten. *Mentálna bolesť i sociálna patológia*. 1970. p. 237 ff.

宮沢訳・刑法と犯罪学、罪と罰四卷四号七頁以下。

宮沢訳・テュービンゲンにおける統合科学的犯罪学研究——方法的

論的問題と経験——本誌四〇卷一二号六九頁以下。

須々木主一訳・経験科学としての刑事学の位置決定、比較法学四

卷一号一六一頁以下。

Neuere Ergebnisse der kriminologischen Forschung in Tübingen.

Krim. Geg. Fr. 1970. S. 70 ff. (紹介・村上尚文・罪と罰三三三頁以下)

ケリコーンホルト(Gerald Grünwald)

著書

Zur Kritik der Lehre vom überpositiven Recht, 1971.

Das Rechtsfolgensystem des Alternativ-Entwurfs. ZStW. Bd.

80. 1968. S. 89 ff.

Die Strafrechtsreform in der Bundesrepublik Deutschland und

in der Deutschen Demokratischen Republik. ZStW. Bd. 82. 1970.

西ドイツ刑法学の現状

S 250 ff.

Die Wahrunterstellung im Strafverfahren. FSchr. f. Honig. 1970.

S. 53 ff.

Zum Mehrheitsvorschlag des Alternativ-Entwurfs, in: Baumann,

Das Abtreibungsverbot. 1971. S. 194 ff.

ダッシュウァント(Martin Gschwind)

一九一九年に、ハーゼル近郊のリーヘンに生れた。ハーゼル大学

で、まず医学を学び、一九四七年に学位を取得した後、法学を学

び、ゲルマン教授のもとで一九五〇年に学位を取得した。

その後、ハーゼル大学のメンダグのもとで精神分析を研究し、一九

六二年にはチューリッヒのメンダグのもとで運命分析を研究し

た。その後、イタリア、フランス、デンマークの各地の犯罪学研究

所で、犯罪学研究に従事し、一九六七年に、マインツ大学私講師と

なった。教授資格請求論文は、Die Wertfunktion des Menschen.

Ein Beitrag zur kriminologischen Grundlagenforschung, 1969. 486°

論文

Das Verbrechen als Schicksal, in: Verbrechen—Schuld oder

Schicksal? 1969. S. 207 ff.

Zur Kriminologie des Vorsatzes. FSchr. f. Germann. 1969. S. 59

ff.

Die sozialtherapeutische Anstalt in verschiedenen europäischen

104 (1971H)

Ländern. ZSchr. f. Psychotherapie und med. Psychologie. 20. Jg. 1970. S. 59 ff.

Kriminogense, Kriminodynamik und Handlung. Tagungsberichte 1969 und 1970. 1971. S. 57 ff.

エド (Karl Alfred Hall)

論文

Der unrealistische Dieb und der poetische Betrüger. Ein Lehrstück. FSchr. Engisch. 1969. S. 561 ff. (綜合・前編宮川・犯罪論叢書ノ七巻四号八一頁以下)

Über Strafmilderungs- und Straferhöhungsgründe. Schluß und Umkehrschluß aus § 59. Ein Collegium logicum am Beispiel der §§ 217, 350 StGB. FSchr. f. Maurach. 1972. S. 107. ff.

エドナク (Ernst-Walter Hanack)

一九六九年に、チューリッヒ大学教授に就いたエドナクの後任として、一九七〇年に、マインツ大学に教授となした。著書

Zur Problematik der gerechten Bestrafung nationalsozialistischer Gewaltverbrecher, 1968.

Empfehl es sich, die Grenzen des Sexualstrafrechts neu zu bestimmen ? 1968.

Hanack-Wahle, Denkschrift zur Reform des Rechtsmittelrechts

und der Wiederaufnahme des Verfahrens im Strafprozess, 1971.

論文

Zur Problematik der gerechten Bestrafung nationalsozialistischen Gewaltverbrecher. JZ. 1967. S. 297 ff., 329 ff.

Zur Frage geminderter Schuld der vom Unrechtsstaat geprägten Täter. Probleme der Verfolgung und Ahndung von nationalsozialistischen Gewaltverbrechen. Verh. zu. 46. Deutsch. Juristentag. Bd. II C. 1967. S. 53 ff.

Brennpunkte einer Reform des Sexualstrafrechts. Beitr. Sex. Forsch. Heft 43. 1968. S. 25 ff.

Zur Problematik einer Sonderstrafe für Rückfalltäter. Programm. 1968. S. 100 ff. (綜合・中川祐夫・寛谷法善ノ一巻三・四号111頁以下) 邦訳・佐伯謙三・中川祐夫(113頁以下)

Zur Problematik einer Sonderstrafe für Rückfalltäter. FSchr. Engisch. 1969. S. 100 ff.

Juristische Voraussetzungen der Einweisung von Delinquenten in sozialtherapeutischen Anstalten. ZSchr. f. Psychotherapie und med. Psychologie. Jg. 20. 1970. S. 45 ff.

Zur Austauschbarkeit von Beweismitteln im Strafprozess. JZ. 1970. S. 561 ff.

Rupp-Hanack, Zur Kontrolle des Verteidigers beim Besuch von Untersuchungshäftlingen. JR. 1971. S. 273 ff.

Rechtsvergleichende Bemerkungen zur Strafbarkeit des Schwan-



Wirken » ideologische Aufschwünge ‹ kriminalitätshemmend? ›

MKrim. 1967. S. 34 ff.

Zur Kriminalität in beiden Teilen Deutschlands. FSchr. f.

Maurach. 1972. S. 641 ff.

＜ハントマン＞(Hans von Hentig)

著書

Der jugendliche Vandalismus, 1966. (綴介・植村秀三・犯罪学雑誌

三十五卷十号(1967年))

Der Schiffsmord und neun andere Verbrechenstudien, 1967. (1

部の綴介・小田晋・犯罪学雑誌三十八卷十号(1967年))

Der Muttermord, 1968. (綴介・中田参・犯罪学雑誌三十九卷十号(1968年))

阿波)

Mord-Genetik und sieben andere Verbrechenstudien, 1971.

綴介

Urolagie. Zunahme einer seltenen Störung. MKrim. 1967. S. 77 ff.

Verfrühte Wiederheirat als Verdachtsmoment. Schw. ZStr. Bd.

83. 1967. S. 72 ff.

Der modus operandi beim Verwandtenmord. AKrim. Bd. 139.

1967. S. 131 ff.

Dogmatik, Strafverfahren, Dunkelfeld. FSchr. Englisch. 1969. S.

663 ff.

＜ラッハ(Rüdiger Herren)

一九三一年九月九日ワグネルに生れた。

学位論文がラッハ教授に提出した Die Gesinnung im Rahmen

der vorsätzlichen Tötungsdelikte, insbesondere beim Mord, 1966

ワグネル。ミススであるが、その後、フライブルク大学のヴァルテ

ンベルガー教授の主宰する研究所に属して研究を進め、一九七〇年

に表題論文を出した。教授資格請求論文は、Freud und die Krimino-

logie, 1972. ワグネル。

譯書(不詳)

Soll Dein Kind das nächste Opfer sein? (Merkblatt zum

Schutze des Kindes vor Stittlichkeitsverbrechen)

Gezielte Jugendschutzaktion anlässlich des Weltkindertages der

UNO 1963; Verteilung des Merkblattes in jeden Haushalt des

Kantons Basel-Stadt.

Die Welt der Gefangenen. Offene Tür (Hilfsverein für Straf-

entlassene), 1964.

Der schuldige Mensch. Verbrechen. Schuld oder Schicksal?

Offene Tür, 1965.

綴介

Der moderne Kriminalroman und seine Beziehung zum Unbe-

wussten. Der Psychologe (Psychologische Monatschrift), Bd.

VI. Heft 2, 1954.

Zur Psychologie des abergläubischen Verbrechers. PSYCHE (Zeitschrift für Tiefenpsychologie und Menschenkunde in Forschung und Praxis). VIII. Jg., Heft 6. 1954/55. ebenfalls in: Internationale Kriminalpolizeiliche Revue Nr. 99. 1956.

Der Sadismus im Schundroman. Studie zur Kriminalpsychologie. Der Psychologe. Bd. VII. Heft 8. 1955.

Probleme der Kindestötung (Art. 116 Schweizerisches Strafgesetzbuch). Strafrechtliche und kriminologische Aspekte. Rapport pour les Journées d'études de Strasbourg du 8 au 10 novembre 1955.

Kinder und Jugendliche als Zeugen bei Sexualdelikten. Internationale Kriminalpolizeiliche Revue. Nr. 96. 1956. (雑誌 Jammaica Constabulary Force Magazine. Vol. 3. Nr. 2. 1956)

Der Autoraser. Studie zu einer tiefenpsychologischen Kriminologie. Der Psychologe. Bd. IX. Sonderheft 5. "Psychologie der Strasse". 1957.

Kriminal-Prophylaxe. Probleme, Methoden und Ziele. Der Psychologe. Bd. IX. Sonderheft 7/8. Schutz der seelischen Gesundheit. 1957.

Das Verbrechen auf den Strassen der deutschsprachigen Länder. (La délinquance des rues et des routes en pays germaniques). Internationale Kriminalpolizeiliche Revue. Nr. 116 und 117. 1958. S. 72 ff., 111 ff.

西アメン刑法学の現状

Der Mord ohne Motiv. Eine moderne Erscheinungsform der Jugendkriminalität. Psychologische Rundschau. Bd. IX/4. 1958.

Zur Psychologie des Gattenmordes. Bausteine zu einer tiefenpsychologischen Kriminologie. Der Psychologe. Bd. X. Sonderheft 4/5. "Psychologie der Ehe". 1958, auch in: Internationale Kriminalpolizeiliche Revue. Nr. 131. 1959. S. 244 ff.

Zur Psychologie der Dirnenmoralität. Eine kriminologische Studie. MKrim. 42. Jg. Heft 7-8. 1959. S. 245 ff.

Schutz des Kindes und Jugendlichen vor Sexualverbrechen. Der Psychologe. Bd. XI. Heft 3. 1959.

Der Mensch im Labyrinth von Perversion und Verbrechen. Der Psychologe. Bd. XI. Sonderdoppelheft 7/8. Die Liebeshigkeit und ihre Störungen. 1959.

Krimineller Liebeszauber. Studie zur Kriminalwissenschaft. Krim. 13. Jg. Heft 9. 1959. S. 375 ff.

Die Leserwit als psychologisches Problem, in: Kinder und Eltern, Wegweiser und Ratgeber für Eltern im Erziehungs-Alltag. 1959. (Gefährlicher Autostop. Ein Kapitel praktischer Kriminalschutz. Weltkindertag der UNO 1959). Zürichsee-Zeitung. 1959.

Das Verbrechen in Phantasie und Traum. Der Psychologe. Bd. XII. Sonderdoppelheft 7/8. Träume und ihre Bedeutung. 1960.

Gibt es Morde ohne Motiv? Krim. 14. Jg. Heft 12. 1960. S. 509 ff.

- “Motivlose Morde” Jugendlicher. Kriminologie, Prophylaxe und Psychohygiene. Internationales Journal für prophylaktische Medizin und Sozialhygiene. 5. Jg. Nr. 2. 1961.
- Der innere Richter. Über den unbewussten Selbstverrat des kriminellen Menschen. Der Psychologe. Bd. XIV. Heft 5/6. 1962.
- Psychologie und Polizei. Der Psychologe. Bd. XV. Heft 8/9. 1962, auch in: Neue Beiträge zur Psychologie im Dienste der Polizei. Die Polizei im demokratischen Rechtsstaat. Bd. VI. 1965.
- Die Lebensbilanz im Dasein rechtsrecherischer Menschen. Der Psychologe. Sonderdoppelheft. Lebensgeschichtliche Bilanz und Neurose. Bd. XV. 8/9. 1963.
- Verräterische Notizen. Der Selbstverrat der Kriminellen in kriminologischer und polizeitaktischer Sicht. Krim. 17. Jg. 1963. S. 293 ff., 373 ff.
- Die Bedeutung der Psychologie für die moderne Polizei. Die Neue Polizei. 17. Jg. Nr. 12. 1963.
- Okkultismus und Verbrechen. Zum Problem der sog. Kriminopathie. Krim. 18. Jg. 1964. S. 476 ff., 567 ff.
- Zur Psychologie der Haft. Krim. 19. Jg. 1965. S. 341 ff.
- Das stumme Gewissen. Probleme der Psychotherapie im modernen Strafvollzug. ZfStrVo. 14. Jg. 1965, auch: Der psychotherapeutische Heilungsverlauf und seine Grenzen. 1965.
- The Society for Criminal Biology between yesterday and tomorrow. Review and orientation. Excerpta Criminologica. Vol. 8. No. 4. 1968.
- 40 Jahre Kriminalbiologische Gesellschaft. Rückblick und Ausblick. Krim. 22. Jg. 1968. S. 190 ff.
- Württemberg-Herren, Bankraub in Deutschland. Ein Forschungsprojekt des Instituts für Kriminologie und Strafvollzugskunde der Universität Freiburg i. Br. Krim. 24. Jg. 1970. S. 475 ff.
- Modelvorstellung für das Wahlfach “Kriminologie, Jugendstrafrecht, Strafvollzug” im künftigen juristischen Hochschulunterricht. JZ. 1971. S. 455 ff.
- Profile: Erich Wulffen. Krim. 26. Jg. 1972. S. 177 ff.
- ケルマン (Joachim Herrmann)
- フラインフタ大学のノヒンハック教授の門下で、ヤンクス・ブロンン外国・国際刑法研究所の助手を長く間勤を、英米法の専門家として知られた。
- 一九五九年に学位を取得した。その論文は、Die Anwendbarkeit des politischen Strafrechts auf Deutsche im Verhältnis zwischen der Bundesrepublik Deutschland und der Deutschen Demokratischen Republik, 1960 である。
- 一九六〇年には、アメリカのチャロニン大学で比較法の修士を取得した。その論文は、Some Problems of Mens Rea in American and

German Criminal Law. A Comparative Study. Thesis submitted in partial fulfillment of the requirements for the degree of the "Master of Common Law". Tulane University. School of Law. 一九七〇年。ノランノント大学教講師となつた。教授資格論文論文は「Die Reform der deutschen Hauptverhandlung nach dem Vorbild des anglo-amerikanischen Strafverfahrens. 1971 年」。くニエンだん「こままぶ」論文は余り多くなつた。全刑法雑誌の海外欄で、数多くの書評を書つてゐる。

脚註

Jerome Hall, Strafrechtstheorie. ZStW. Bd. 73. 1961. S. 385 ff.  
S. A. Strauss, Neuere Entwicklungen im Strafrecht von Süd-Afrika. ZStW. Bd. 76. 1964. S. 143 ff.

Monrad G. Paulsen, Grundzüge des amerikanischen Strafprozesses. ZStW. Bd. 77. 1965. S. 637 ff.

Fred E. Inbau, Das Verhältnis zwischen wirkungsvoller Strafverfolgung und dem Grundrechtsschutz des Einzelnen. ZStW. Bd. 78. 1966. S. 302 ff.

Die strafrechtlichen Staatsschutzbestimmungen der Vereinigten Staaten von Amerika, in: Die strafrechtlichen Staatsschutzbestimmungen des Auslandes, 2. Aufl. herausg. von Jescheck und Mattes, 1968. S. 500 ff.

論文

Beweisaufnahme durch die Parteien und Kreuzverhör im anglo-

アムリカン刑法の現状

amerikanischen Strafverfahren. ZStW. Bd. 80. 1968. S. 775 ff. do. Mitteilungen aus der Max-Planck-Gesellschaft. 1968. S. 111 ff.

ウルム (Hans Joachim Hirsch)

一九二九年四月一日、マルクトブランドンブルクのウーッテンブルクに生れた。一九六六年冬学期に、レーゲンスブルク大学正教授に就任した。全刑法雑誌の書評欄の担当者であり、ライプツェヒ大注釈書の第九版の共同執筆者の一人である。

著書

L.K. 9. Aufl. (§ 223—233), 1972.

論文

Zur Abgrenzung von Strafrecht und Zivilrecht. FSchr. Engisch. 1969. S. 304 ff. (紹介・山岸昭夫・法學論叢八九巻) 頁八六頁以下)

Hauptprobleme einer Reform der Delikte gegen die körperliche Unversehrtheit. ZStW. Bd. 83. 1971. S. 140 ff.

Zur Problematik des erfolgsqualifizierten Delikts. GA. 1972. S. 65 ff.

ホーニツト

著書

Beweisverbote und Grundrechte im amerikanischen Strafprozess, 1967.

Wiederaufnahme und dissenting opinions im amerikanischen Strafverfahren, 1969.

論文

Die Bewertung polizeilicher Ermittlungshandlung durch den Supreme Court der Vereinigten Staaten. ZStW. Bd. 79, 1967. S. 347 ff.

ホルニョカ (Joachim Hruschka)

一九三五年の「ノースラマ」事件。『ドイツ大学』の「ドイツの憲法と裁判」論文 Die Konstitution des Rechtsfalles—Studien zum Verhältnis von Tatsachenfeststellung und Rechtsanwendung, 1965 年。『地位を取得後』『法学の助手』の「動務」の「ドイツ一九七〇年同大法学講師となった教授資格請求論文」Das Ver-  
stehen von Rechtstexten—Zur hermeneutischen Transpositivität des positiven Rechts, 1970. 『法学』の「ドイツ大学」の「カマンマンが受理した」。一九七一年の学期に「ドイツ大学教授に就任した」。

論文

Rechtsanwendung als methodologisches Problem. ARSP. Bd. 50 S. 485 ff.  
Der Begriff der "Tat" im Strafverfahrensrecht. JZ. 1966. S. 700 ff.

Die Nichterfüllung von Steuerabzugspflichten und die Grenzen

ihrer Strafbarkeit nach § 413 Abs. 2 Satz 2 AO. DSTR. 1966. S. 696 ff.

Anstiftung zum Meineid und Verleitung zum Falscheid. JZ. 1967. S. 210 ff.

Zum Tatbestandsmerkmal "wider ihren Willen" im § 236 StGB.

JZ. 1967. S. 594 ff.

Konkurrenzfragen bei den sog. erfolgsqualifizierten Delikten.

GA. 1967. S. 42 ff.

Zum Problem der "Wahlfeststellungen". MDR. 1967. S. 265 ff.

Zum Problem der Verbindlichkeit von Rechtsnormen—Die Thesen Rupert Schreibers von der "Unverbindlichkeit der Verbindlichkeit". ARSP. Bd. 54. 1968. S. 159 ff.

Der Begriff der *actio libera in causa* und die Begründung ihrer Strafbarkeit. Jus. 1968. S. 554 ff.

Die Dogmatik der Dauerstrafaten und das Problem der Tatbeendigung. GA. 1968. S. 193 ff.

Methodologische Bemerkungen zur Auslegung des § 236 StGB. JR. 1968. S. 454 ff.

Zur Abhandlung der Nichterfüllung von Steuerabzugspflichten im geltenden und im künftigen Recht. DSTR. 1968. S. 263 ff.

Zur Frage des Wirkungsbereichs eines freiwilligen Rücktritts vom unbeendeten Versuch. JZ. 1969. S. 495 ff.

Zur Logik und Dogmatik von Verurteilungen aufgrund me-

hrdeutiger Beweisergebnisse im Strafprozeß. JZ. 1970. S. 637 ff.

“Wahlfeststellung” zwischen Diebstahl und sachlicher Begünstigung ? NJW. 1971. S. 1392 ff.

イハーガー (Herbert Jäger)

一九二八年五月一日、ハンブルクに生れた。ハンブルク大学のインフマンの弟子で、同大学の刑法・刑事政策研究所の助手を長く間勤めていたが、一九六六年冬学期に、キーゼン大学正教授に迎えられる。

イハーガーの学位論文は、‘Strafgesetzgebung und Rechtsgüter’schutz bei Sittlichkeitsdelikten, 1957、及び、‘教授資格請求論文はVerbrechen unter totalitärer Herrschaft. Studien zur nationalsozialistischen Gewaltkriminalität, 1967、である。

論文

Grenzen des Strafrechts. Krim. 1958. S. 52 ff.

Todesstrafe und öffentliche Meinung. Krim. 1958. S. 393 ff.

Todesstrafe und Tatsachenforschung. Krim. 1959. S. 128 ff.

Jäger-Bader, Der Normanspruch des Staates, in: Glöse, Psychopathologie der Sexualität. Bd. 1. 1959. S. 170 ff.

Anmerkung zu Problemen der Zurechnungsfähigkeit, in: Der medizinische Sachverständige. 1959. S. 19 f.

Betrachtungen zum Eichmann-Prozess. MKrim. 1962. S. 73 ff.

Strafrechtspolitik und Wissenschaft, in: Bauer, Sexualität und Verbrechen. 1963. S. 273 ff.

Das Problem des Unrechtsbewußtsein, in: Rechtliche und politische Aspekte der NS-Verbrechensprozesse. Universität Mainz Gemeinschaftsvorlesung. 1966/67. 1968. S. 50 ff.

Strafrecht und nationalsozialistische Gewaltverbrechen. Kritische Justiz. 1968. Heft 2. S. 143 ff., ebenfalls, in: Ulrich Sonnemann, Wie frei ist unsere Justiz ? 1969. S. 83 ff.

Plädoyer in einem Demonstrationsprozess, in: Vorträge 1970. S. 8 ff.

Studienreform im Strafrecht, in: Neue Juristenausbildung. 1970 S. 98 ff.

ヤハンハン (Hans-Heinrich Jescheck)

経緯

Lehrbuch des Strafrechts. Allgemeiner Teil. 1969

Jescheck-Matthes, Die strafrechtlichen Staatsschutzbestimmungen des Auslandes. 2. Aufl. 1968.

Bedingungen und Methoden des Rechtsunterrichts in den USA, 1971.

論文

Struttura e trattamento della culpa nel mondo moderno. Sc. Pos. 1966. S. 367 ff.

Zur Reform des politischen Strafrechts. JZ. 1967. S. 6 ff.

Die Behandlung der männlichen Homosexualität im ausländischen Strafrecht, in: Homosexualität oder Politik mit dem §175. 1967. S. 86 ff.

Die kriminalpolitische Konzeption des Alternativ-Entwurfs eines Strafgesetzbuches (Allgemeiner Teil). ZStrW. Bd. 80. 1968. S. 54. ff.

Rechtsvergleichende Bemerkungen zur strafrechtlichen Behandlung der einfachen Homosexualität. Beitr. Sex. Forsch. Heft 43. 1968. S. 45 ff.

Gustav Radbruchs Beitrag zur Strafrechtsvergleichung. GSchr. Radbruch. 1968. S. 356 ff.

Die Behandlung des sog. illegalen Staatsgeheimnisses im modernen Strafrecht. FSchr. Englisch. 1969. S. 584 ff.

The Discretionary Powers of the Prosecuting Attorney in West Germany, in: American Journal of Comparative Law, Vol. 18. No. 3. 1970. p. 508 ff.

Neue Formen der internationalen Rechtshilfe in Strafsachen. FSchr. f. Honig. 1970. S. 69 ff.

Der Entwurf eines neuen Sexualstrafrechts im Lichte der Rechtsvergleichung. ZStrW. Bd. 83. 1971. S. 299 ff.

Gegenstand und neueste Entwicklung des internationalen Strafrechts. FSchr. f. Maurach. 1972. S. 579 ff.

カイザー (Günther Kaiser)

一九二九年の生れである。テュービンゲン大学のケルン教授に提出した論文 Randalierende Jugend. Eine soziologische und kriminologische Studie über die sogenannte »Halbstarcken«, 1959. にたいし学位を取得した。一九六二年に「ゲッティンガー教授の手で」テュービンゲンに犯罪学研究所が創設されると同時に参加し、主任研究員として活躍した。一九六八年冬学期に「テュービンゲン大学私講師となったが、教授資格請求論文は「Verkehrsdelinquenz und Generalprävention: Untersuchungen zur Kriminologie der Verkehrsdelikte und zum Verkehrsstrafrecht, 1970」である。一九七〇年には「フライブルク大学員外教授に招聘された」イマックスマンの「外国国際刑法研究所の犯罪学部門を担当するようになった」。

編輯

Kriminologie. Eine Einführung in die Grundlagen, 1971.

Kaiser-Wirtenberger, Criminological Research Trends in Western Germany. German Report to the 6th International Congress on Criminology in Madrid 1970, 1972.

繼次

Die Vorbelastungen der randalierenden Jugend. Krim. 13. Jg. 1959. S. 52 ff.

Moderne Kriminologie, Strafrechtsreform und das "neue" Bild des Menschen. Krim. 16. Jg. 1962. S. 545 ff., 17. Jg. 1963. S. 10ff,

- Moderne Kriminologie und ihre Kritiker. in: *Mergen, Kriminologie—Morgen*. 1964. S. 63 ff.
- Kriminalität in der Wohlstandsgesellschaft. *Krim.* 20. Jg. 1966. S. 281 ff., 339 ff.
- Entwicklung und Stand der "sozialistischen Kriminologie". *Krim.* 20. Jg. 1966. S. 553 ff., 635 ff.
- Entwicklung und Stand der Jugendkriminalität in Deutschland. *Krim. Biol. Geg. Fr.* Heft 7. 1966. S. 17 ff.
- Künstliche Insemination und Transplantation, in: *Göppinger, Arzt und Recht*. 1966. S. 58 ff.
- Kaiser-Schellhoss: Entwicklungstendenzen der Kriminologie. *JZ*. 1966. S. 772 ff.
- Zur kriminalpolitischen Konzeption der Strafrechtsreform. *ZStW.* Bd. 78. 1966. S. 100 ff.
- Die Beziehungen zwischen Kriminologie und Strafrecht. *GA*. 1967. S. 289 ff.
- Zum Verhältnis Kriminologie und Kriminalpolitik in der sozialistischen Gesellschaft. *Kriminologische Wegezeichen*. 1967. S. 211 ff.
5. Verkehrsgerichtstag. *Krim.* 21. Jg. 1967. S. 252 ff.
- Der kriminalpolitische Standort des Alternativ-Entwurfs eines Strafgesetzbuches. *Krim.* 21. Jg. 1967. S. 287 ff.
- Das Strafsystem des Alternativ-Entwurfs eines Strafgesetzbuches. *Krim.* 21. Jg. 1967. S. 337 ff.
- Das Massregelssystem im Alternativ-Entwurf eines StGB und Schlussbemerkungen zum Entwurf. *Krim.* 21. Jg. 1967. S. 393 ff.
- Probleme interdisziplinärer Forschung in der Kriminologie. *MKrim.* 50. Jg. 1967. S. 352 ff.
- Verkehrsjustiz—quo vadis? (5. Verkehrsgerichtstag—Bericht, Eindrücke, Anmerkungen). *ZSchr. Verkehrssicherheit*. 13. 1967. S. 141 ff.
- Zur gegenwärtigen Lage des deutschen Strafvollzugs. *Krim.* 1968. S. 120 ff.
- Neue Wege im Strafvollzug. *Krim.* 1968. S. 171 ff.
- Einige Vorbemerkungen zu Grundfragen heutiger Kriminalpolitik. *MKrim.* 1968. S. 1 ff.
- Zum Stand der Behandlungs- und Sanktionsforschung in der Jugendkriminologie, dargestellt am Beispiel des Jugendarrests. *MKrim.* 1969. S. 16 ff.
- Eugenik und Kriminalwissenschaft heute. *NJW*. 1969. S. 538 ff.
- Short term treatment for adult offenders. *Introductory report.* European committee on crime problems—Subcommittee No. XI. Council of European DPC/CEPC XI (69). 1969. p. 1 ff.
- Ausgangspunkte, Wandlungen und Streitfragen kriminologischen Denkens. *DRiZ*. 1970. S. 255 ff.

Jugendrecht und Jugendkriminalität. RdJ. 1970. S. 168 ff.  
 Einfluß der Fortschritte der Biologie und der Medizin auf das  
 Strafrecht. ZStRw. Bd. 83. 1971. Beihft. Deutsche strafrechtli-  
 che Landesferate zum VIII. Internationalen Kongress für Re-  
 chtsvergleichung Pescara. 1970. S. 9 ff.

Kriminologische Forschung in Deutschland und die empirische  
 Untersuchungen am Max-Planck-Institut. ZStRw. Bd. 83. 1971.  
 S. 1093 ff.

Praxis der Strafzumessung und der Sanktion im Verkehrsrecht.  
 Blutalkohol. Vol. 9. Nr. 3. 1972. S. 141 ff.

The Relationship between Scientific Research and Criminal  
 Policy, in: Kaiser-Würtenberger, Criminological Research Trends  
 in Western Germany. 1972. p. 15 ff.

Entwicklungsstendenzen des Strafrechts. FSchr. f. Maurach.  
 1972. S. 25 ff.

Praxis der Strafzumessung und der Sanktionen im Verkehrsrecht.  
 Krim. Geg. Fr. Heft 10. 1972. S. 92 ff.

フントンの (Armin Kaufmann)

Die Dogmatik im Alternativ-Entwurf. ZStRw. Bd. 80. 1968.  
 S. 34 ff.

Tatbestandsmäßigkeit und Verursachung im Contengan-  
 Verfahren. Folgerungen für das geltende Recht und für die Gesetz-

gebung. JZ. 1971. S. 569 ff.

フントンの (Arthur Kaufmann)

一九六八年冬季期に、引退したフンクミンツの後継者として、フ  
 ンクン大学第一講座を承継した。

著書

Schuld und Strafe. Studien zur Strafrechtsdogmatik, 1966.

宮沢・渋谷・原沢編・現代法哲学の諸問題 昭和四三年

Rechtstheorie. Ansätze zu einem kritischen Rechtsverständnis,  
 1971.

Wozu Rechtsphilosophie heute? 1971. (肥後誠論集(第四七号))

Kaufmann-Hassener. Grundprobleme der zeitgenössischen Re-  
 chtsphilosophie und Rechtstheorie, 1971.

Die Strafvollzugsreform. Eine kritische Bestandsaufnahme, 1971.

Rechtsphilosophie im Wandel, 1972. (法學界の論文と討論) 24号の

「法學界」に「法と罪の関係をめぐって」

Widerstandsrecht, 1972.

論文

Analogy and "The nature of Things"—A Contribution to the  
 Theory of Types—Journal of the Indian Law Institut. Vol. 8.  
 No. 3. 1966. p. 358 ff.

Dogmatische und kriminalpolitische Aspekte des Schuldgeda-  
 kens im Strafrecht. JZ. 1967. S. 553 ff. (44号 Programm, op. cit. S.

56 ff. に再録。紹介・大谷実・鹿谷法学一卷三・四号一二三頁以下、邦訳・佐伯編訳・加藤久雄・生田勝義・大谷実・六九頁以下)

Der Alternativ-Entwurf eines Strafgesetzbuches und das Erbe Radbruchs GSchr. Radbruch. 1968. S. 324 ff. (44年 Missingt die Strafrechtsreform? 1969. S. 93 ff. 以下再録)

Die Geschichtlichkeit des Rechts im Lichte der Hermeneutik.

FSchr. Englisch. 1969. S. 243 ff.

Kaufmann-Hassener, Criteria of Justice. Ottawa Law Review.

Vol. 4. No. 2. 1971. p. 403 ff.

Strafrecht und Strafvollzug, in: Kaufmann, Strafvollzugsreform. S. 35 ff.

Bemerkungen zur Reform des § 218 StGB aus rechtsphilosophischer Sicht, in: Baumann, Das Abtreibungsverbot. S. 46 ff.

Brief an einen Bischof, ebenda. S. 149 ff.

Vorschläge zur Neugestaltung des § 218 StGB. Arzt und Christ. Jg. 1971. S. 151 ff.

Rechtsfreier Raum und eigenverantwortliche Entscheidung dargestellt am Problem des Schwangerschaftsabbruchs. FSchr. f. Maurach. 1972. S. 327 ff.

Perche' la filosofia del diritto oggi? Rivista internazionale di filosofia del diritto. Anno II. Fasc. 1. 1972, p. 79 ff.

カウマン (Hilke Kaufmann)

一九七〇年夏学期にケルン大学正教授に招聘された。赴任した。

著書

Kriminologie I. Entstehungszusammenhänge des Verbrechen, 1971.

論文

Die Regelung der Zurechnungsfähigkeit im E 1962. JZ. 1967. S. 139 ff.

Das Bild der Frau im älteren kriminologischen Schrifttum.

MKrim. 1967. S. 143 ff.

Das Verhältnis von § 3 JGG zu § 51 StGB. JZ. 1969. S. 358 ff.

Kriminologie zum Zwecke der Gesellschaftskritik? JZ. 1972. S. 78 ff.

ケルン (Eduard Kern)

一九七二年三月六日に八五歳の生涯を終えた。追悼文は 'Seibert, Nachruf auf Eduard Kern. NJW. 1972. S. 713 以下'。

キーナマン (Diethelm Kienapfel)

一九六八年夏学期にオーネストリアのリンツ大学の法経学部教授に招聘された。

その教授資格請求論文は 'Urkunden im Strafrecht: Begriff,

Prinzipien und Erscheinungsformen auf der Grundlage hochstrichterlicher Rechtsprechung, 1967. ㄱ49ㄴ°

著者

Das erlaubte Risiko im Strafrecht, 1966 (徳語・井上操監・岩城徳三|田泰|かやて風云々)

Privatsphäre und Strafrecht, 1969.

Der Einheitsäter im Strafrecht, 1971.

Strafrechtsfalle, 2 Aufl., 1971.

編者

Urkundenbegriff und »Rechtserheblichkeit« ZStrW. Bd. 82. 1970. S. 344 ff.

»Absichtsurkunde« und »Zufallsurkunde«. GA. 1970. S. 193

ff.

“Beteiligung“ und “Teilnahme“. Zum Verhältnis vom OWiG. zum StGB. NJW. 1970. S. 1826 ff.

Erscheinungsformen der Einheitstaterschaft, in: Müller-Dietz, Strafrechtsdogmatik und Kriminalpolitik. 1971. S. 21 ff.

Urkunden und technische Aufzeichnungen. JZ. 1971. S. 163 ff. Betrachtungen zur juristischen Vorlesung. JZ. 1971. S. 417 ff.

Dreher-Kienapfel, Der Einheitsäter im Ordnungswidrigkeitenrecht. NJW. 1971. S. 121 ff.

Zur Urkundenqualität von Fotokopien, Xerokopien und Abschriften. NJW. 1971. S. 1781 ff

Juristische Lernprogramme. JR. 1972. S. 89 ff.

Neue Horizonte des Urkundenstrafrechts. Zur Auslegung der §§ 267, 268 und 274 I Ziff. 1 StGB. FSchr. f. Maurach. 1972. S. 431 ff.

カントニクテヨク (Theodor Kleinkecht)

一九一〇年八月一八日付’ソノカヘン州のランゲンタインナックに在りた。州の検事総長に於てハナランタン大判の各著者等に於て。

著者’カトー教授と異同した。Die Berufsuntersagung nach § 42 I StGB. ソノハシテ原長。

著者

Kleinkecht-Müller-Reitberger, Kommentar zur Strafprozessordnung und zum Gerichtsverfassungsgesetz, 1954 (Kleinkecht-Müller 4. Aufl. 1958. 原長’ Müller-Sax. 6. Aufl. 1966. ソノカヘン)

Schwarz-Kleinkecht, Kommentar zur Strafprozessordnung mit

Gerichtsverfassungsgesetz und Nebengesetzen, 23. Aufl. 1963 bis 28. Aufl. 1969. (原長’ Kleinkecht. 29. Aufl. 1970. 30. Aufl. 1971. ソノカヘン)

編者

Zur Beschwerde nach § 172 StPO. JZ. 8. Jg. 1953. S. 137 ff. Der Vollzug der Untersuchungshaft. JZ. 8. Jg. 1953. S. 531 ff.

Das vierte Strafrechtsänderungsgesetz. Verfahrensrecht. JZ. 12.

Jg. 1957. S. 407 ff.

Das Fehlurteil im Strafprozess. Gedanken zu dem gleichnamigen Buch von Max Hirschberg. GA 1961. S. 45 ff.

Condemnation sans débat. La procédure sommaire comme élément de la répression d'actes illicites dans la République Fédérale d'Allemagne. Rev. int. d. dr. pén. 1962. p. 393 ff.

Die Anwendung unmittelbaren Zwangs bei der Blutentnahme nach § 81 a StPO. NJW. 17. Jg. 1964. S. 2181 ff.

Gesetz zur Änderung der Strafprozessordnung und des Gerichtsverfassungsgesetzes. JZ. 20. Jg. 1965. S. 113 ff., 153 ff.

Die Frist zur Begründung der Revision in Strafsachen (§ 345 I StPO). — Berichtigung—JZ. 20. Jg. 1965. S. 246 ff.

Entscheidungen über die Untersuchungshaft. MDR. 19. Jg. 1965. S. 781 ff.

Die Beweisverbote im Strafprozess. NJW. 19. Jg. 1966. S. 1537 ff.

Arzt und Patient—rechtlich gesehen. Med. Klinik 1968. S. 772 ff.

Arzt und Sicherheit im Strassenverkehr. Med. Klinik 1968. S. 1870 ff.

Informelles Schuldinterlokut im Strafprozess nach geltendem Recht. Zur modernen Gestaltung der Hauptverhandlung. F.Schr. f. Heinitz. 1972.

西マイン刑法学の現状

クルーグ (Ulrich Klug)

論文

Abschied von Kant und Hegel. Programm. 1968. S. 36 ff.

(紹介・佐伯千敏・鹿谷法華 一巻三・四号一〇二頁以下) 邦訳・佐伯編訳・久岡康成(四一頁以下)

Thesen zu einem kritischen Relativismus in der Rechtsphilosophie. GSchr. Radbruch 1968. S. 103 ff.

Ungeschriebene Tatbestandsmerkmale beim Staatsgeheimnisbegriff. FSchr. Englisch. 1969. S. 570 ff. (紹介・斎藤謙吾・法政論叢八七巻一号八六頁以下)

Phänomenologische Aspekte der Strafrechtsphilosophie von Kant und Hegel. FSchr. Husserl. 1969. S. 212 ff.

Der neue Straftatbestand des Friedensverratens. Misslingt die Strafrechtsreform? 1969. S. 162 ff.

Der Anwendungs—und Zurechnungsankrotz bei der Bestrafung der Schwangenschaftsurtüberechtigung—5 DM für eine Abtreibung? in: Baumann, Das Abtreibungsverbot. S. 167 ff.

Rechtliche Probleme der Vorbeugehaft. Tagungsberichte 1969 und 1970. 1971. S. 115 ff.

ゲーテ (Günter Kohlmann)

一九六四年フランクフルト大学のウエルテンブル教授に提出した論文  
Das subjektiv-öffentliche Recht auf fehlerfreien Ermessensge-

111 (一七三九)

brauch. 1964 によつて学位を取得した。その後、クルーク教授の助手として研究にはげみ、一九六九年に私講師となった。教授資格請求論文「Der Begriff des Staatsgeheimnisses (§ 93 StGB und § 99 Abs. 1 StGB a. F.) und das verfassungsrechtliche Gebot der Bestimmtheit von Strafvorschriften (Art. 103 Abs. 2 GG), 1969 である。同年、フランクフルト大学正教授に招聘された。一九七一年には、ケルン大学正教授となった。

著書

Handbuch des Steuerstrafrechts, 1971.

論文

Nulla poena—nullum crimen sine lege. Art. 103 Abs. 2 GG und das Aktiengesetz. Die Aktiengesellschaft, 1961. S. 309 ff.

Innen dienstliche Mitteilungen als falsche Anschuldigung? Finanzrundschau, 1962. S. 92 ff.

Zehn Jahre Rechtsprechung des Gerichtshofs der Europäischen Gemeinschaften. MDR, 1963. S. 560 ff.

Schließt die Verführung der Vortat auch die Bestrafung wegen der Nachtat aus? JZ, 1964, S. 492 ff.

Aktenstrafrecht—verfehlt, verstaubt, vergessen? Zeitschrift für das gesamte Kreditwesen, 1964. S. 1052 ff.

Gerichtliche Überprüfung aller Unterwerfungsverfahren seit 1949? Fina nznrundschau, 1968. S. 319 ff.

Der Anspruch des Beschuldigten auf schnelle Durchführung des

Prüfungsverfahrens. FSchr. f. Maurach, 1972. S. 501 ff.  
クラウゼ (Friedrich-Wilhelm Krause)

一九二〇年一月五日に、キールで生れた。マイヤー教授のもとで提出した論文「Der objektive Tatbestand des § 253 StGB, 1954, (未公開)で学位を取得し、一〇年間、裁判官や検察官として実務を経験した後、一九六五年にキール大学私講師となった。一九六七年に、マンハイムの経済大学教授となった。同大学は、一九六八年に入学部をもつ総合大学に改編されたので、法学部の刑法第一講座を担託することとなった。

論文

Die Untreue, in: Materialien zur Strafrechtsreform. 2. Bd. Rechtsvergleichende Arbeiten II. Besonderer Teil, 1955. S. 367 ff. (邦訳・法務資料四二二号七九頁以下)

Die Fristbestimmung nach § 154 a StPO, in: Schleswig-Holsteinische Anzeigen, 1960. S. 158 f.

Wann sind Beschlüsse nach § 454 Abs. 1 StPO zu vollziehen? in: Schleswig-Holsteinische Anzeigen, 1961. S. 43 ff.

Erfüllt die Nichtverfolgung durch den Staatsanwalt bei privat erlangter Kenntnis einer strafbaren Handlung den Tatbestand des § 346 StGB? GA, 1964. S. 110 ff.

Zur unzulässigen Strafvollstreckung (§ 345 StGB). Schleswig-Holsteinische Anzeigen, 1964. S. 271 ff.

Betrachtungen zur actio libera in causa, insbesondere in der Form

vorsätzlicher Begehung. FSchr. f. Mayer. 1966. S. 305 ff

Zur prozessualen Bedeutung des Grenzwerts der absoluten Fahruntüchtigkeit. Butalkohol 1967. S. 340 ff

Die Stellung der Staatsanwaltschaft im heutigen Strafprozess. Schleswig-Holsteinische Anzeigen. 1968. S. 105 ff

Die vorläufige Einstellung von Strafsachen praeter legem. GA. 1969. S. 97 ff.

Die Verfolgung Unschuldiger (§ 344 StGB.) Schleswig-Holsteinische Anzeigen. 1969. S. 77 f.

Kriminalpolitische Betrachtungen zur sog. Chantage. MKrim. 1969, S. 214 ff.

Fahndung und Prozessrecht, in: Fahndung, 1970. S. 201 ff.  
"Absolute" Befangenheitsgründe beim Sachverständigen? FSchr.

f. Maurach. 1972. S. 549 ff.

タラント (Detlev Krauff)

一九七〇年夏季期に、ザール大学正教授に就任したタラントは、  
「タラント大学のホッケルマン教授の弟子である。学位論文の教授  
資格論文が公開されたことなど。後者のテーラーは Beweisverbod im  
Strafprozess について述べた。」

論文

Erfolgsunwert und Handlungsunwert im Unrecht. ZStrW. Bd.

76. 1964. S. 19 ff.

Zum Begriff der straflosen Nachtat. GA. 1965. S. 173 ff.

Der Grundsatz der Unschuldvermutung im Strafverfahren, in:  
Muller-Dietz, Strafrechtsdogmatik und Kriminalpolitik. 1971. S.  
153 ff

ケント (Albert Krebs)

Die Forschungen Robert von Hippels über die Entwicklung der  
modernen Freiheitsstrafe und ihre Bedeutung für das deutsche  
Gefängniswesen. ZStrW. Bd. 79. 1967. S. 1 ff.

Der Strafvollzugsbedienstete. StVollz. Deutschland. 1967. S.  
199 ff

Das "Gustav-Radbruch-Haus" —Strafanstalt für Männer in  
Frankfurt am Main-Preußesheim. GSehr. Radbruch. 1968. S.  
344 ff.

Aus der Geschichte der Straffälligenhilfe in Hessen. Zum hun-  
dertjährigen Bestehen des Frankfurter Gefängnis-Vereins.  
ZfStrVo. 1969. S. 127 ff.

Zu Chr. J. Klumker: Die straffälligen Jugendlichen. ZfStrVo.  
1969. S. 222 ff.

Die Aufgabe des Freiheitsstrafvollzuges. Ideen- und begriffge-  
schiehtliche Bemerkungen. MKrim. 1970. S. 145 ff.

リククナー (Karl Laekner)

一九一七年二月一八日にライオン・フョームツのライオンヤーで生れた。その学位論文は、ボン大学のウーナー教授に提出した Vermögen und Vermögensschaden in der Betrugstheorie des Reichsgerichts, 1946 年である。敗戦直後の出版事情で、公世されなかつた。その後、実務家の道を歩み、司法省参事官として、数多くの論文を書き、刑法改正作業に従事して来たことは、周知のことであり、ハイデルンブルグ大学正教授に招聘された。

ライオン・チャド大注釈書の共同訳者の一入である。  
 著書

Laekner-Maassen, StGB. 4. Aufl. 1967. 5. Aufl. 1969. 6. Aufl. 1970.

Das konkrete Gefahrdungsdelikt im Verkehrsstrafrecht, 1967.

LK. 9. Aufl. (§ 253~256), 1970.

論文

Trunkenheit am Steuer als Gefahrdungsstatbestand, in: Blutalkohol. 1962. S. 217 ff., 1963. S. 1 ff.

Kriminalpolitische und gesetzgeberische Massnahmen, in: Die Pädophilie und ihre strafrechtliche Problematik. 2. Teil. 1965. S. 101 ff.

Landesverräterische Agententätigkeit. ZStW. Bd. 78. 1966.

S. 695 ff.

Der Alternativentwurf und die praktische Strafrechtspflege.

JZ. 1967. S. 513 ff.

Irrationales Widerstreben gegen die Prozesse in: Probleme der Verfolgung und Ahndung von nationalsozialistischen Gewaltverbrechen. Verh. d. 46. Deut. Juristentages. Bd. II C. 1967. S. 59 ff.

In memoriam Gustav Radbruch. Ruperto Carola. Bd. 45. 1968.

S. 112.

Empfehle es sich, die Grenzen des Sexualstrafrechts neu zu bestimmen? in: Verh. d. 47. Deut. Juristentages. Bd. II K. 1968. S. 27 ff.

Vollrausch und Schuldprinzip. Jus. 1968. S. 215 ff.

Möglichkeiten zur Vereinheitlichung der strafrechtlichen Ahndung von Trunkenheitsdelikten im Straßenverkehr auf internationaler Ebene, in: Blutalkohol. 1969. S. 273 ff.

Die Verfassungsmässigkeit des OWiG im Hinblick auf die Vorlagebeschlüsse zweier Amtsgerichte, in: Kraftfahrt + Verkehrsrecht. 1969. S. 201 ff.

Alkoholdelikt und Vorsatz, in: Kraftfahrt + Verkehrsrecht. 1969. S. 397 ff.

Die Grenzen des Sexualstrafrechts, in: Die neue Strafrechtsreform. Sonderheft des Rheinischen Merkurs. 1969.

Strafrechtsreform und Praxis der Strafrechtspflege. JR. 1970. S. 1 ff.



Die rechtsvergleichenden Vorarbeiten für die Strafrechtsreform. ZStW. Bd. 66, 1954, S. 111 ff.

Johannes Nagler: Ein Nachruf, in: Jahrbuch d. Schless. Fried. Willh. Universität zu Breslau. Bd. I, 1955, S. 22 ff.

Zum Gedenken an Gotthold Bohne. JZ, 1958, S. 377 f.

Zur Frage der Zurechnungsfähigkeit bei Sittlichkeitsstraf-tätern, insbes. Homosexuellen, nach geltendem Recht und dem Entwurf zu einem StGB 1962, in: Zurechnungsfähigkeit bei Sittlichkeitsstraf-tätern. 1963, S. 44 f.

Richard Busch zum 70. Geburtstag. JZ, 1963, S. 768.

Grundfragen der österreichischen Strafrechtsreform unter Berücksichtigung der deutschen Strafrechtsreform. Schriftenreihe der Vereinigung Vorarlberger Akademiker. 1965, Heft 7, S. 43 ff.

Kriminalpolizeiliche Technik und Persönlichkeitsrechte, in: Kriminalpolizei und Technik. Arbeitstagung im Bundeskriminalamt Wiesbaden vom 17. bis 21. April 1967, S. 17 ff.

Zur Frage der Grenzen strafrechtlicher Normsetzung auf dem Gebiet geschlechtlichen Verhaltens (unter besonderer Berücksichtigung der Homosexualität) in: Festschr. f. das Oberlandesgericht Zweibrücken. 1969, S. 85 ff.

Bemerkungen zum Begriff der "Tat" im Strafrecht unter besonderer Berücksichtigung der Strafzumessung, des Rücktritts und der tätigen Reue beim Versuch und der Teilnahme. Norma-

tiver Tatbegriff, in: FSchr. English. 1969, S. 353 ff. (録分・中川 邦一・邦彦編纂入丸藤三郎五八頁以下)

Persönlichkeitsrechte und (Kriminal) polizeiliche Technik (nach dem Stand von 1970). Die Polizei. 1970, S. 1 ff., 45 ff., 84 ff.

Tecnica di polizia giudiziaria e dritti della personalità, in: Annali della facoltà di Giurisprudenza della Università degli studi di Genova. Anno XIII. 1969, Fase. 2, p. 337 ff.

Erwägungen zur künftigen Ausgestaltung der Knuppelvorschriften. GA. 1970, S. 225 ff.

Zum strafrechtlichen Rechtsschutz des Lebens vor der Geburt. JR. 1970, S. 365 ff.

Probleme der Sicherungsverwahrung. Zum Begriff der erheblichen Straftat. FSchr. f. Maurach. 1972, S. 311 ff

ロンゲ (Richard Lange)

長久間 編集責任者となりつたが、一九六八年から『全刑法雑誌の編集者』に就任した。

邦彦

Das Rätsel Kriminalität. Was wissen wir vom Verbrechen, ? 1970.

LK. 9. Aufl. (§ 51), 1970, (§ 211-217), 1970, (§ 221-222), 1972.

Strafrechtsreform. Reform im Dilemma, 1972.

論文

Zur Geschichte des strafrechtlichen Staatsschutzes. Verfass-  
ungsschutz. 1966. S. 199 ff.

Ist die Bezahlung fremder Prozessstrafen gemäss § 888 oder  
890 ZPO Begünstigung? FSchr. Englisch. 1969. S. 621 ff.

Das Menschenbild des Positivismus und die philosophische An-  
thropologie unserer Zeit. ZStrW. Bd. 81. 1969. S. 556 ff.

Beteiligter und Teilnehmer. FSchr. f. Maurach. 1972. S. 235 ff.

講演 (Heinz Lefrenz)

コンフレンスの法律学と医学の学位論文をはじめ、旧稿と抜粋  
いた文献について、詳細な補遺用の文献表が、本人から送ら  
れた。法律学の学位は、モウノンウナー教授に提出した論文  
Germanisch-rechtliche Einschlüsse im Erbrecht des Code civil Frank-  
reichs verglichen mit dem schweizerischen und deutschen Recht.  
により取得し、医学の学位は、クニッシャー教授に提出した論文  
Über den Einfluß der Bernsteinsäure auf den Blutmilchsäure-  
spiegel nach Arbeitsleistung. により取得した。

ハイデルベルク大学の法学部研究室に、精神医学的な実証的研究  
を行なう犯罪学研究所を持つこと。

論文 (補遺を含む)

Über die Beurteilung der Zurechnungsfähigkeit. Zusammen-  
mit H. J. Rauch, Arbeiten zur Psychiatrie, Neurologie und ihren

Grenzgebieten. Festschrift für Kurt Schneider 1947. S. 1 ff.

Die Tat und ihre Motive als Kriterium der Zurechnungsfähig-  
keit. Zentralblatt für die gesamte Neurologie und Psychiatrie.  
119. 1955. S. 155 ff.

Zur Problematik des forensischen Krankheitsbegriffs. MKrim.  
Bd. 39. 1956. S. 186 ff.

Die stationäre jugendpsychiatrische Untersuchung sozial gefäh-  
rlicher Kinder als behördliche Maßnahme. MKrim. Sonderheft zum  
5. Internat. Kongreß für soziale Verteidigung in Stockholm.  
1958. S. 39 ff.

Die Kriminalprognose auf statistischer Grundlage. Kriminalpo-  
litische Gegenwartfragen. 1959. S. 71 ff.

Ausgewählte Fragen aus dem Gebiete der Heilpädagogik, Pro-  
bleme der Jugendgesundheit. Deutsche Zentrale für Volksgesund-  
heit. 1960

Das Maßregelrecht in dem Entwurf eines StGB. 1960. Zentral-  
blatt für die gesamte Neurologie und Psychiatrie. 161. 1961. S. 27.

Der Strafvollzug an jugendlichen und heranwachsenden Jung-  
tägern. Die Persönlichkeitsbeurteilung jugendlicher Rechtsbrecher.  
in: Württenberger, Kriminologie und Vollzug der Freiheits-  
strafe. 1961. S. 112 ff.

Zur Psychologie minderjähriger Brandstifter, in: Brandermi-  
tlung und Brandverhütung. 1962. S. 239 ff.

- Über die Möglichkeiten und Grenzen der Sozialprognose, in: Jahrbuch für Jugendpsychiatrie. Bd. 3. 1962. S. 165 ff.
- Zur Problematik der Psychopathie im Kindes- und Jugendalter, in: Psychopathologie heute. Hrsg. von Heinrich Kranz. 1962. S. 355 ff.
- Ursachen und Form der Kinderkriminalität. Jugend vor Gericht. 1964. S. 77 ff.
- Hauptsächliche Erscheinungsformen, Ursachen und zweckmäßige Bekämpfung der Jugendkriminalität, in: Hauptsächliche Erscheinungsformen und zweckmäßige Bekämpfung der Jugendkriminalität. 16. Kriminalistische Arbeitstagung vom 30. 9.—2. 10. 1964 am Polizeinstüt Hiltrup. S. 16 ff.
- Hauptsächliche Erscheinungsformen und Ursachen der Jugendkriminalität, in: Polizei. 2. 1965. S. 53 ff.
- Die Bekämpfung der Jugendkriminalität, in: Polizei. Bd. 3. 1965. S. 89 f.
- Die Kriminalität der Kinder, in: Die Sozialpädagogik und ihre Theorie. Hrsg. von Hermann Röhrs. 1968. S. 184 ff.
- Zur Problematik der Psychopathie im Kindes- und Jugendalter, in: Psychologie der abnormen Persönlichkeiten, hrsg. von Nikolaus Petrilowitsch. 1968. S. 390 ff.
- Die Persönlichkeitsbeurteilung jugendlicher Rechtsbrecher, in: Weg und Aufgabe des Jugendstrafrechts. Hrsg. von Friedrich Schaffstein und Olaf Mehe. 1968. S. 464 ff.
- Kriminologie und Kriminalpolitik. Krim. Geg. Fr. Heft 8. 1968. S. 10 ff.
- Der gefährdete Mensch in der Sicht des Kriminologen, in: Der gefährdete Mensch in der Sicht der Wissenschaften. Hrsg. von Herbert Krimm. 1970. S. 31 ff.
- Research on Sentencing in Probation and Especially the Choice of Delinquents to Be Put on Probation, in: Kaiser-Würtenberger, Criminological Research Trends in Western Germany. 1972. p. 58 ff.
- Investigations on the Validity of Prediction Tables in the Field of Probation, in: Kaiser-Würtenberger, ebenda. p. 62 ff.
- Die Persönlichkeit des Täters im Hinblick auf Strafzumessung und sichernde Maßnahmen. Krim. Geg. Fr. Heft 10. 1972. S. 18 ff.
- ハンクナー (Theodor Lenckner)  
一九六六年の刑法改正草案の共同犯罪者の一人の役割  
論文
- Strafrecht und ärztliche Hilfeleistungspflicht. Med. Klinik. 1966. S. 274 ff., 313 ff.
- Zur Haftung für die Tätigkeit des Pflege- und Hilfspersonals. Hippokrates. 1966. S. 828 ff.
- Zum Begriff der Täuschungsabsicht im § 267 StGB. NJW.

1967. S. 1890 ff.

Zum Problem des Vermögensschadens (§ 253, 263 StGB) beim Verlust nichtiger Forderungen. JZ. 1967. S. 105 ff.

»Gebotensein« und »Erfordlichkeit« der Notwehr. GA. 1968. S. 1 ff.

Wertausfüllungsbedürftige Begriffe im Strafrecht und der Grundsatz "Nullum crimen sine lege". Jus. 1968. S. 249 ff.

Wertausfüllungsbedürftige Begriffe im Strafrecht und der Grundsatz "Nulla poena sine lege". Jus. 1968. S. 304 ff.

Technische Normen und Fahr. lässigkeit. FSchr. English. 1969. S. 490 ff. (紹介・中森謙毅・法律雑誌論入六卷三頁三九頁以下)

Die Strafrechtsreform in der Bundesrepublik und der Alternativ-Entwurf eines Strafgesetzbuches. Misslingt die Strafrechtsreform? 1969. S. 65 ff. (國語光臨記・法律雑誌論四卷九号五四頁以下・四四卷一〇号一三三頁以下)

Ärztliche Hilfeleistungspflicht und Pflichtenkollision. Med. Klinik. 1969. S. 1000 ff.

Rechtliche, standesrechtliche und ethische Aspekte der ärztlichen Schwangerschaftsunterbrechung nach § 105 des Alternativen Entwurfs, in: Baumann, Das Abtreibungsverbot. S. 275 ff.

Die kurze Freiheitsstrafe nach den Strafrechtsreformgesetzen. JurA. 3. Jg. 1971. S. 37 ff.

Vermögensschaden und Vermögensgefährdung beim sog. Eing-

hungsbetrug. JZ. 1971. S. 320 ff.

Kausalzusammenhang zwischen Täuschung und Vermögensschaden bei Aufnahme eines Darlehens für einen bestimmten Verwendungszweck. NJW. 1971. S. 599 ff.

ローターマン (Klaus Lüderssen)

一九六四年に「ボンミンフント大学ライナイヤーとゲールの両教授に受託された論文」Zum Strafgrund der Teilnahme, 1967 に於て学位を取得し、後に「助手としての勤務」であったが、一九七〇年に「論文の Erfahrung als Rechtsquelle, Abduktion und Falsifikation von Hypothesen im juristischen Entscheidungsprozess. Eine Fallstudie aus dem Kartellstrafrecht, 1972.」により同大学私講師となった。一九七一年夏学期に「マッテマン大学員外教授となったが、同年冬学期に「ランクトル大学正教授を招聘され、就任した。」

著書

Strafrecht und "Dunkelziffern", 1972.

論文

Karl Josef Anton Mittermaier und der Empirismus in der Strafrechtswissenschaft. Jus. 1967. S. 444 ff.

Kann gewaltsame Wegnahme von Sachen Erpressung sein? GA. 1968. S. 257 ff.

Einleitung zu P. J. A. Feuerbach und K. J. A. Mittermaier, Theorie und Erfahrung in der Rechtswissenschaft des 19. Jahr-

hundert, 1968, S. 46 ff.

Planning and the legal system in Germany. The International and Comparative Law Quarterly, 1971, Jan. p. 75 ff.

Grolmann, Karl Ludwig Wilhelm von, Handwörterbuch zur deutschen Rechtsgeschichte, S. 1807 ff.

ルントカール (Hans Lüttger)

一九一五年四月一日にキーンに生まれた。法律学の学位を取得した博士。Titel und Berufszeichnungen in Firma und Warenzeichen—Diss. Köln, 1939, 246頁。

その後、実務家として活躍し、論文を数多く發表しているが、一九六七年に、ヘルリン自由大学の正教授に迎えられる。教授資格請求論文を著す。

論文

Die Änderung des Schuldspruchs durch das Revisionsgericht in der Rechtsprechung des Obersten Gerichtshofs für die Britische Zone, DRiZ, 1950, S. 348 ff.

Das Recht des Verteidigers auf Akteneinsicht, NJW, 1951, S. 744 ff.

Die Ausbildung der Referendare im Strafrecht, GA, 1956, S. 164 ff.

Der genügende Anlaß zur Erhebung der öffentlichen Klage, GA, 1957, S. 193 ff.

Ist § 90 a Abs. 3 StGB, verfassungswidrig? GA, 1958, S. 181 ff.

Der Nachweis der Verfassungswidrigkeit einer Vereinigung oder Partei im Strafverfahren, GA, 1958, S. 225 ff.

Internationale Rechtshilfe in Staatschutzverfahren? GA, 1960, S. 33 ff.

Zur Strafbarkeit der Verwendung von Kennzeichen ehemaliger nationalsozialistischer Organisationen nach § 4 des Versammlungsgesetzes, GA, 1960, S. 129 ff.

Lüttger-Kaul, Ist die gerichtliche Beschlagnahme künftiger Ausgaben von erfahrungsgemäß staatsgefährdenden periodischen Schriften zulässig? GA, 1961, S. 74 ff.

Zum Gesetz zur Überwachung strafrechtlicher und anderer Verbringungsverbote, MDR, 1961, S. 809 ff.

Lockerung des Verfolgungszwanges bei Staatschutzdelikten? JZ, 1964, S. 569 ff.

Ist die Staatsanwaltschaft an die ständige oder gefestigte höchstgerichtliche Rechtsprechung gebunden? (vorbereiteter Diskussionsbeitrag), Verhandlungen der Strafrechtlichen Abteilung des 45. Deutschen Juristentages 1964, Band III, S. 69 ff.

Zur Abgrenzung des objektiven Tatbestands der §§ 92 und 109 f StGB sowie zum Presse- und Funkprivileg des § 109 f Abs. 1 Satz 2 StGB, MDR, 1966, S. 629 ff. u. 713 ff.

Staatsschutzverfahren—statistisch gesehen. MDR. 1967. S. 165 ff. S. 257 ff. u. S. 349 ff.

Das Staatsschutzstrafrecht gestern und heute. JR. 1969, S. 121 ff., auch in : Die Politische Meinung. Heft IV. 1968. S. 62 ff.

Zur Reform des § 353 c StGB. JZ. 1969. S. 578 ff

Der Beginn des Lebens und das Strafrecht. JR. 1969, S. 445 ff., auch in: Beiträge zur gerichtlichen Medizin. 1970. S. 23 ff.

Geheimchutz und Geheimnisschutz. GA. 1970. S. 129 ff.

Der Beginn der Geburt und das Strafrecht. Probleme an der Grenze zwischen Leibesfruchtcharakter und Menschenqualität. JR. 1971. S. 133 ff.

Der Tod und das Strafrecht. JR. 1971. S. 309 ff.

〔追記〕

その後、ブラウ教授(ホッフム大学名誉教授)、私講師のハッセマー(ミュンヘン大学)、ラインホルト・フォン・ヒッペル(ケルン大学)、ヤコブス(ボン大学)の資料が集まった。(二)の末尾に紹介した。